

手末遺跡発掘調査報告書

平成 15 年 3 月

加古川市教育委員会

手末遺跡発掘調査報告書

平成 15 年 3 月

加古川市教育委員会

序 文

加古川市は豊かな自然に恵まれ、近年では播磨臨海工業地域の一員としても発展しています。

市域には約 620 もの埋蔵文化財が存在しています。今回、その内のひとつである手
末遺跡が発掘調査されました。この遺跡は神野中部ほ場整備事業に伴う事前の確認調
査によって、発掘された遺跡です。

発掘調査は平成 11 年 4 月 26 日から 7 月 8 日まで実施されました。本書はその結果
をまとめた報告書です。この報告書が当市の古代の姿を理解するうえで一助となれば
幸いです。

また、今回の調査に際してご指導、ご協力いただいた兵庫県教育委員会、加古川市
文化財審議委員会、並びに地元の方々に感謝申し上げます。

平成 15 年 3 月

加古川市教育長

松本 翼

例　言

1. 本報告書は神野中部地区は場整備事業にともなって、平成 11 年に実施された手
　　^て
　　^て未遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査場所は兵庫県加古川市神野町神野 796 他である。
3. 発掘調査は平成 11 年 4 月 26 日から平成 11 年 7 月 8 日まで実施した。
4. 調査主体は加古川市教育委員会である。
　　調査主体者　　加古川市教育長　松本　毅
　　調査担当者　　加古川市教育委員会生涯学習推進室　西川英樹
　　調査作業員　　田中鉄二・中山茂・岩佐力三・佃徳光・桑垣忠司
　　　　　　　　間處康成・永井操・采野尚子・柿本ゆり子・高松八重子
　　　　　　　　南良子
　　遺物整理員　　西村秀子・佐藤敦子・采野尚子・瀬川信子・西川美佳
　　　　　　　　蛭田朱美・斎藤加代子・加藤朱見・上野あい子・品川量子
5. 本書は以下の分担で執筆した。

　　実測図作成・トレース　　西川英樹・西村秀子・品川量子・蛭田朱美
　　　　　　　　　　　　　　西川美佳

　　報告書執筆　　西川英樹
　　遺物写真撮影　岡本範之・斎藤加代子・加藤朱見
6. 本報告書に係る図面・写真・遺物は、加古川総合文化センター(加古川市平岡町
新在家 1224-7)において保管している。
7. 本稿の作成にあたり、弥生土器に関して兵庫県教育委員会 岸本一宏 氏及び
芦屋市教育委員会 森岡秀人 氏には多大な教示を得た。記して感謝します。

目 次

本文目次

第1章	発掘調査にいたる経過	1
第2章	遺跡の位置と歴史的環境	2
第3章	発掘調査の成果	8
第1項	立地・現状	8
第2項	調査方法	8
第3項	基本層序	8
第4項	遺構	9
第5項	遺物	12
第4章	まとめ	26

挿図目次

第1図	遺跡位置図	4
第2図	周辺遺跡分布図	6

表 目次

第1表	周辺遺跡分布図地名表	5
第2表	出土遺物観察表	15

図版目次

- 図版 1 等高線復元図
図版 2 トレンチ全体配置図
図版 3 トレンチNo.3、No.5 設定図
図版 4 トレンチNo.8、No.9、No.10 設定図
図版 5 トレンチNo.3
図版 6 SH-1 検出状況
図版 7 SH-1 完堀状況
図版 8 トレンチNo.5
図版 9 トレンチNo.8
図版 10 トレンチNo.9
図版 11 トレンチNo.10
図版 12 SH-1 出土土器実測図
図版 13 SH-1 出土土器実測図
図版 14 SH-1 出土土器実測図
図版 15 SH-1 出土土器実測図
図版 16 SH-1 出土土器実測図
図版 17 SH-1 出土土器実測図
図版 18 SH-1 出土土器実測図
図版 19 SH-1 出土土器実測図
図版 20 SH-1 出土土器実測図
図版 21 SD-1 出土土器実測図
図版 22 SK-2、SP-1 出土土器実測図

写真図版目次

- 写真図版 1 調査地全景(航空写真)
写真図版 2 SH-1 検出状況、SH-1 完堀状況
写真図版 3 トレンチNo.5、トレンチNo.8
写真図版 4 トレンチNo.8・SH-2、トレンチNo.10・SD-1
写真図版 5 SH-1 出土土器 (1~7)
写真図版 6 SH-1 出土土器 (8~13)
写真図版 7 SH-1 出土土器 (14~20)

- 写真図版 8 SH-1 出土土器 (21~27)
写真図版 9 SH-1 出土土器 (28~35)
写真図版 10 SH-1 出土土器 (36~41)
写真図版 11 SH-1 出土土器 (42~48)
写真図版 12 SH-1 出土土器 (49~56)
写真図版 13 SH-1 出土土器 (57~63)
写真図版 14 SH-1 出土土器 (64~69)
写真図版 15 SH-1 出土土器 (70~76)
写真図版 16 SH-1 出土土器 (77~83)
写真図版 17 SH-1 出土土器 (84~90)
写真図版 18 SD-1 出土土器 (91~97)
写真図版 19 SD-1 出土土器 (98~110)
SK-2 出土土器 (111~114)
SP-1 出土土器 (115)

第1章 発掘調査に至る経過

手末遺跡は、平成11年度に発掘調査が実施された遺跡である。この遺跡は、手末構居跡の伝承地という形で周知されていた。手末構居跡は、播磨鑑に「神納庄手末村に在り。別所の幕下」という簡単な記述がある他、播州古城蹟集録にも「手末城、手末村。城主は知らず。別所長治幕下」というほぼ同じ記述があるだけで、具体的な内容は一切わかつておらず、遺跡分布地図上に落とされた範囲もおよその推測位置でしかなかった。

この地域において、平成11年度に神野中部地区は場整備事業が実施されることとなった。加古川市教育委員会は平成10年度から兵庫県三木土地改良事務所及び神野中部土地改良区と協議を重ね、構居跡の実態が不明確であることもあって、範囲確認調査を実施することとした。

調査は平成11年4月26日から7月8日まで、中断を含みながら実施された。
調査範囲は20,000m²、トレンチ面積合計は500m²である。

調査を開始すると、ほぼ全域で弥生時代後期の遺構・遺物を検出した。主な遺構は堅穴住居跡・溝・土壙などである。

また、遺跡分布地図の推定位置から約90mほど南西にずれた位置で、約方1町程の規模をもつ中世後期の構居跡の堀跡を検出することが出来た。堀跡は幅約5~6m、深さ約70~90cmである。郭内にあたる場所に設定したトレンチからは、中世後期の遺構や遺物が検出された。

主な遺構は石組み井戸1基・土壙・溝・柱穴などである。石組み井戸の底からは、漆器挽片や黒漆塗り横櫛などが出土した。その他、土鍋、土師器皿、青花、天目茶碗、備前焼鉢なども出土した。

弥生集落の遺物整理が先行したため、今回はこの遺跡の報告を行いたい。構居跡について、整理が終了しだい、報告する予定である。

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

加古川市は、市域の南側が播磨灘に面する臨海都市で、東を明石市・加古郡播磨町・加古郡稻美町・西を高砂市・姫路市、北を加西市・小野市・三木市と接している。面積 138.5 km²、人口は約 26 万人である。

産業は、かつては農業が主体であったが、高度経済成長期に南部の海岸地域が埋め立てられ、播磨臨海工業地域の一員として発展することとなった。

市域の地形を見ると、東部には段丘・洪積台地が広く分布しており、西部には山地・丘陵が多い。沖積低地は主に市域南部の加古川氾濫原地帯に広がっている。北部では加古川沿いや支流の曇川、草谷川沿いに細長い谷底低地を形成している。また、市域における山地の地質は主に流紋岩質凝灰岩である。志方町には花崗岩を産出する地域がある。

手末遺跡は加古川の支流である曇川の東岸に位置する。周囲は現在、水田となっている。周辺には多くの遺跡が分布するが、日岡山周辺と西条丘陵周辺に顕著な遺跡の集積が見られる。日岡山は当遺跡から南西に約 1 km ほどの位置にあり、最も古い時期では旧石器の散布地である日岡山遺跡が存在する。この遺跡からはサヌカイト製のナイフ形石器や黒曜石製の細石刃石核などが採集されている。また、南大塚古墳封土からも黒曜石製の楔形細石刃石核が検出されている。

日岡山古墳群は前期を中心とする古墳群で、5 基の前方後円墳を主体として築造されている。主な古墳は、日岡陵古墳（全長約 85m）、南大塚古墳（全長約 90m）、西大塚古墳（全長約 74m）、北大塚古墳（現存長約 59m、前方部消失）、勅使塚古墳（全長約 54m）の前方後円墳と東車塚古墳（消滅 三角縁神獸鏡出土）、狐塚古墳（約 30 m）などの円墳である。また、後期には 20 基ほどの群集墳が築造された。

奈良時代には、北大塚古墳から東へ 600m の位置に石守庵寺が築かれている。1983 ~84 年に市教委による発掘調査が行われ、塔跡・金堂跡などが検出された。その結果、法隆寺式伽藍配置となる奈良時代後期創建の寺院跡であることが判明した。近隣には内容不明ながら、円墳 5 基からなる石守古墳群も形成されている。

また、当遺跡から東へ約 1 km の西条山手丘陵上にも、多くの遺跡が残されている。

西条庵寺下層遺跡からは、弥生時代中期後半の竪穴住居跡が検出されている。また、西条 21 号墳の封土からも、弥生土器が出土している。西条 52 号墓は、弥生時代後期の墳丘墓として著名である。

一方、丘陵下の西側では神野遺跡が形成された。この遺跡は平成 10 年に範囲確認の調査が実施され、弥生時代後期の竪穴住居跡などが検出された。

古墳時代中期には丘陵上に行者塚（全長約100m）・人塚（約64m）・尼塚（約46m）の3基の大型古墳が築造された。

行者塚は平成7年度に発掘調査され、金銅製帶金具の出土など多くの成果を挙げた。この3基は5世紀前半の築造と考えられている。また、古墳時代後期には同じ丘陵上に約30基からなる群集墳が築かれた。

奈良時代前期には人塚古墳に接して、西条廃寺が建造された。法隆寺式に類似する伽藍配置をとり、塔跡・金堂跡・中門跡・欄列跡・講堂跡などが検出された。

手末遺跡から北方の曇川沿いには6世紀後半と思われる二塚古墳が築造されている。隣接する西之山には若神社古墳も築かれていた。

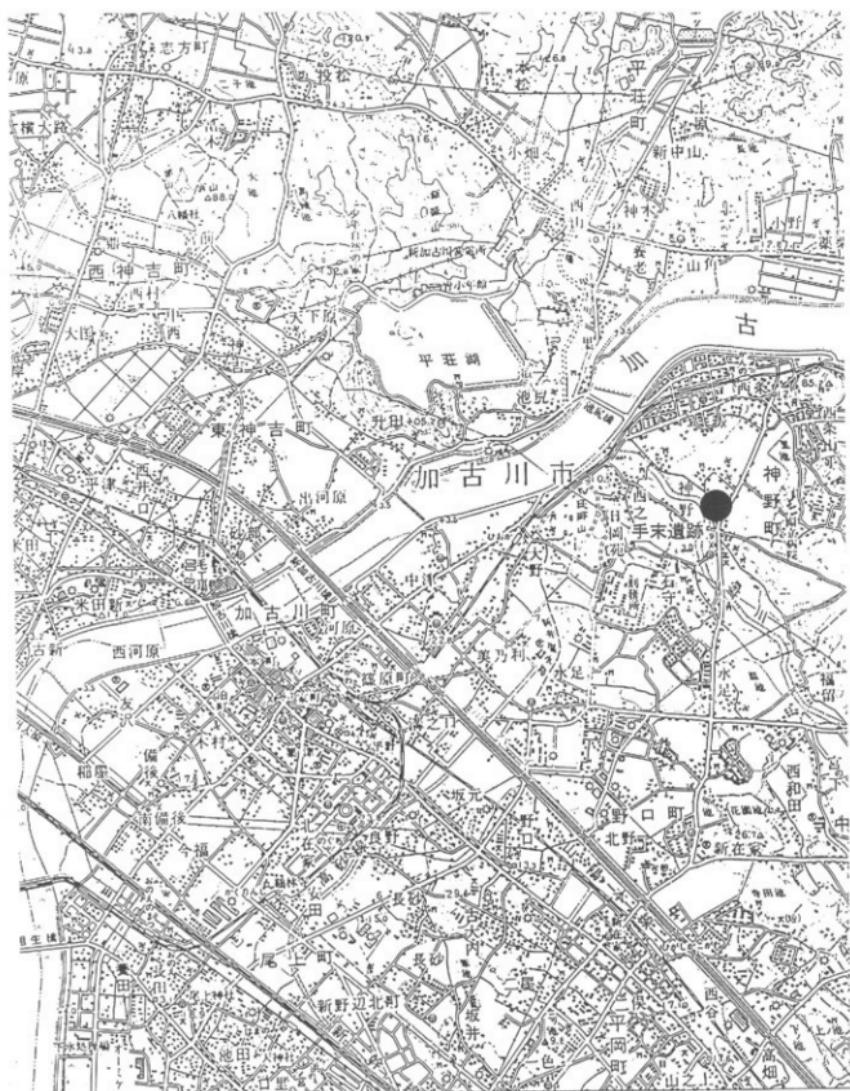
平成12年4～6月に行われた石守構居跡の調査では、古墳時代後期～奈良時代の遺構が検出された。

中世の遺跡としては、先述の手末構居跡の他、北西に約400mほど離れた位置に高田構居跡、西に約500mほど離れた位置に石守構居跡がある。両者とも播磨鑑に記述があるが、現代の集落と重なる位置にあるため、詳細は不明である。

高田構居跡は播磨鑑に「在高田村 別所の幕下」との簡単な記述が残る。想定範囲の周辺部を平成11年度には場整備にともないトレンチ調査したが遺構・遺物とともに発見されなかった。

石守構居跡は播磨鑑に「長七十間横三十間 加納庄 在石守村 今ハ田地百姓ノ居屋敷ニ成 領主ハ中村新五郎修理太夫重房 同孫之進景利ト伝シハ元ハ別所長治ノ幕下ナリシガ 長治亡ヒテ後 秀吉ニ附従ヒ因州ノ軍ニ武功ヲ争ヒ討死ス 又一説 三木乱ニ討死ストモ云」というと伝えており、現在でも北側の曇川沿いに掘と土壙とされる高まりが一部残されている。

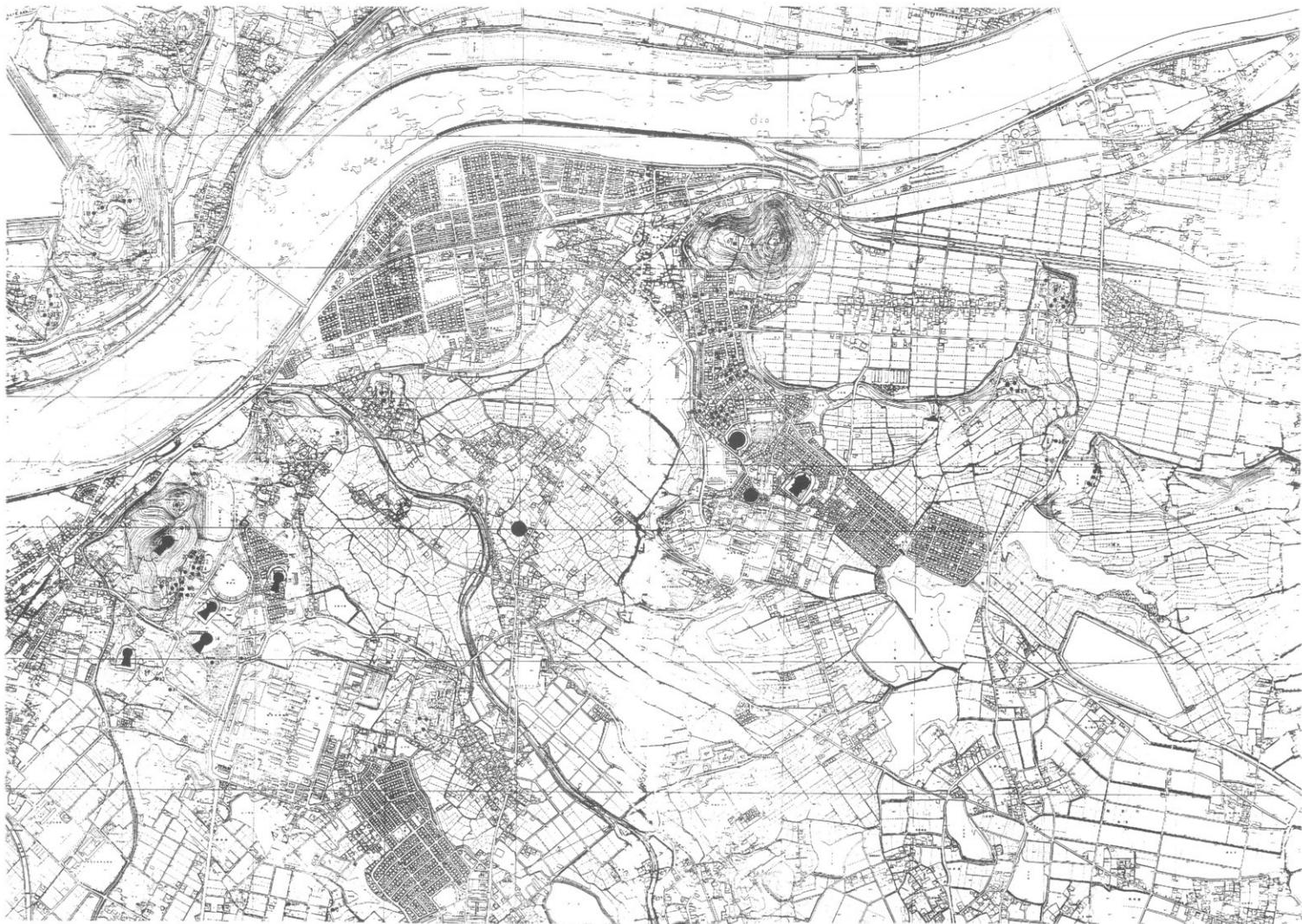
平成12年4月～5月に遺跡周辺の水田において範囲確認調査が行われた。その結果、南側で中世の溝1条を検出したが、周辺部の調査であったため、構居の様相を明らかとすることはできなかった。



第1図 遺跡位置図

第1表 周辺遺跡分布図地名表

1 手宋遺跡	51 下村遺跡	100 西条 51号墳
2 石守構居跡	52 宮山遺跡	101 西条 52号墳
3 石守庵寺	53 東沢古墳	102 西条 53号墳
4 石守 1号墳	54 宮山大塚古墳	103 西条 58号墳
5 石守 2号墳	55 宮山 1号墳	104 西条 59号墳
6 石守 3号墳	56 宮山 2号墳	105 西条 61号墳
7 石守古墳群4号墳	57 宮山 3号墳	106 西条 61-2号墳
8 石守古墳群5号墳	58 宮山 4号墳	107 人塚古墳
9 水足 2号墳	59 宮山 5号墳	108 神野遺跡
10 水足 1号墳	60 宮山 6号墳	109 高田構居跡
11 北大塚古墳	61 東沢遺跡	110 二塚 1号墳
12 東車塚古墳	62 成福寺 1号墳	111 二塚 2号墳
13 西大塚古墳	63 成福寺 2号墳	112 若神社古墳
14 南大塚古墳	64 成福寺 3号墳	113 觀音堂遺跡
15 西軍塚古墳	65 成福寺 4号墳	114 池尻 2号墳
16 日岡山 1号墳	66 古堂佛寺	115 地蔵寺 1号墳
17 日岡山 2号墳	67 上村池遺跡	116 地蔵寺 2号墳
18 日岡山 3号墳	68 西条城跡	117 地蔵寺 3号墳
19 日岡山 4号墳	69 城山 1号墳	118 地蔵寺 4号墳
20 日岡山 5号墳	70 城山 2号墳	119 地蔵寺 5号墳
21 日岡山 6号墳	71 西条土壙墓	120 地蔵寺 6号墳
22 日岡山 7号墳	72 西条藏骨器群	121 平山遺跡
23 日岡山 8号墳	73 神野城山遺跡	122 平山 1号墳
24 日岡山 9号墳	74 西条 1号墳	123 平山 2号墳
25 日岡山 10号墳	75 西条 2号墳	124 平山 3号墳
26 日岡山 11号墳	76 西条 3号墳	125 平山 4号墳
27 日岡山 12号墳	77 西条 4号墳	
28 日岡山 13号墳	78 西条 6号墳	
29 日岡山 14号墳	79 西条 7号墳	
30 日岡山 15号墳	80 西条 9号墳	
31 日岡山 16号墳	81 西条 10号墳	
32 日岡山 17号墳	82 西条 12号墳	
33 日岡山 18号墳	83 西条 13号墳	
34 日岡山 19号墳	84 西条 13号墳	
35 日岡山 20号墳	85 西条 21号墳	
36 ひれ墓古墳	86 西条 21-2号墳	
37 日岡山遺跡	87 西条 23号墳	
38 勅使塚古墳	88 西条 24, 26, 27	
39 日岡山遺跡	28, 30号墳	
40 美乃利遺跡	89 西条 25号墳	
41 狐塚古墳	90 西条 29号墳	
42 曲岡山壹棺墓	91 西条 31号墳	
43 大日山遺跡	92 西条 32号墳	
44 下村古墳	93 西条 34号墳	
45 望塚(盆塚)	94 西条 35号墳	
46 新池 1号墳	95 西条 36号墳	
47 新池 2号墳	96 西条 37号墳	
48 新池 3号墳	97 西条 38号墳	
49 行者塚古墳	98 西条 39号墳	
50 尼塚古墳	99 西条 40号墳	



第2図 周辺遺跡分布図

第3章 発掘調査の成果

第1項 立地・現状

手末遺跡は加古川東岸の神野町神野に所在する。遺跡のすぐ西側を加古川の支流である曇川が流れ、遺跡の北側にあたる新神野地域には、加古川の氾濫原が広がっている。その南側、北神野～東神野地域では曇川に沿って、野口段丘3・1面が形成されている。

遺跡の現状は、全て水田及び畑地である。等高線を見ると、南東から北西にかけてゆるやかに低くなる地形であり、調査区内は、11mから10.6mまでの標高差があるが、概ねフラットな地形である（図版1等高線復元図参照）。

第2項 調査方法

今回の発掘調査は、ほ場整備事業に伴う事前の範囲確認の調査であったため、調査地には基本的に $2 \times 8\text{ m}$ のトレンチを16箇所設定した（図版2 トレンチ全体配置図参照）。しかし、ほ場整備対象地内に何箇所かの除外地が存在したため、トレンチの配置が均等になっていないところがある。また、堅穴住居跡SH-1からは多量の土器が検出されたため、様相を明らかにするため、調査地の拡張を行った。その結果、トレンチの合計面積は 500 m^2 となった。

発掘調査は、現代耕作土及び第2層の灰色砂質土層は、全てパワーショベルによって掘削し、遺構面直上からは人力による掘削に切り替えた。遺構検出および掘削作業もすべて人力によっておこなった。調査終了後の埋め戻し作業は、パワーショベルによって行った。

第3項 基本層序

今回の調査で確認された弥生時代の遺構は、現水田面から約 30 cm 程度下から検出された。遺構面は一面のみであり、これより下層では遺構は検出されていない。遺構を検出した各トレンチの基本層序は、場所によって若干の変化があるが、基本的な堆積は以下のとおりである。

トレンチNo3

第1層 現代耕土層

第2層 灰色砂質土層（黄色多し）
第3層 淡黄色砂質土（遺構検出面）
第4層 灰色礫砂層（5～10cm程度礫含む）

トレンチNo.5

第1層 現代耕土層
第2層 灰色砂質土層（黄色斑文多し）
第3層 淡黄色砂質土層（遺構検出面）

トレンチNo.8

第1層 現代耕土
第2層 淡黄色砂質土
第3層 暗茶褐色砂質土
第4層 浅黄橙色砂質土
第5層 褐色粘質土層（遺構検出面）

トレンチNo.9

第1層 現代耕土
第2層 灰色砂質土（黄色斑文多し）
第3層 黄灰色礫砂層

トレンチNo.10

第1層 現代耕土
第2層 灰色砂質土（黄色斑文多し）
第3層 茶褐色砂質土（遺構検出面）

第4項 遺構

S H-1

S H-1はトレンチ3で検出された竪穴住居跡である。当初、設定したトレンチ内において多量の土器を検出したことから、全容を明かにするために、拡張して調査をおこなった。住居跡の規模は一辺が4m～4.4mで、隅円方形に近い平面プランであるが、南東辺と北西辺は外に張り出し、直線とはならないため、いびつな六角形を呈

する。周壁に沿ってピットがあることや床面積が狭いことから、ベッド状遺構を有する堅穴住居の内区部分の可能性も考えて、一部トレンチを拡張して調査したが、削平の影響もあるためか外区と判断できる遺構は検出されなかった。

床面は検出面からの深さ約20cm程度である。周壁溝は認められなかった。床面積は約13m²である。ピットは計20個が検出された。遺物は出土していない。直径約20cm～40cm、深さ17cm～30cmの規模である。

中央土壌は不整な楕円形となる。長辺約70cm、短辺約50cm、深さ約40cmで、住居中央部から検出した。埋土中には炭が部分的に検出された。また、この土壌の横約30cmの位置にも、不整楕円形の土壌が1基検出された。長辺約70cm、短辺約50cm、深さ約30cmの規模である。内部には灰色砂質土が堆積しており、遺物は出土しなかった。

中央土壌の南側に中央土壌を囲むような環状の土手状高まりが部分的に検出された。しかし、北側の部分には存在しなかった。

住居内には、土器が隙間もないほど多量に廃棄されていた。その状況は大中遺跡における第1土器群や第3土器群の状況と類似している。また、出土した土器が検出面最上部で水平に切られたように欠けていた。この事から、検出面は削平されていると考えられる。出土した土器は壺・甕・鉢・高坏・器台などで、時期は弥生時代後期後半である。

SH-2

トレンチNo8で検出された。幅2mのトレンチ内における検出であるので、一部だけの確認である。砂礫層を掘りこんで構築されており、検出長は約2.7m×1.8mの規模である。方形の平面プランを持っている。北辺の一部を、碎石を集めた幅約55cm、深さ約36cmの後世の暗渠排水路に破壊されていた。周壁溝は西辺側で検出された。幅約20cm、深さ約8cmである。検出面から住居床面までの深さは、約15cmである。遺物は出土しておらず、明確な時期は不明である。検出部分の床面積は、約2.5m²である。主柱穴と考えられるものは検出されなかった。

SD-1

トレンチNo10で検出された。幅60cm、深さ15cmの溝である。トレンチを横断する形で検出された。検出長は約2mである。

埋土中には、壺・甕・高坏・鉢・小型高坏などの土器が、比較的多く廃棄されていた。完形の資料はなく、SH-1と同様に、遺構検出面に接する遺物が全て、カットされたようになっていた。このことから、遺構面はすでにかなり削平されていたと考えられる。

出土した甕は、いずれも口縁端部を丸く収めている。甕や高壺などの特徴から、弥生時代後期後半と考えられる。

SD-2

トレンチNo 5で検出した遺構である。検出長約2m、幅約60cm、深さ約15cmの溝である。遺物は出土していない。

SD-3

トレンチNo 9で検出した遺構である。検出長約2.2m、幅約85cm、深さ約40cmの溝である。遺物は出土していない。

SK-1

トレンチNo 5の南側で検出された、円形の土壙である。トレンチの端に一部かかるため、全体の2/3程度しか検出されていない。長辺約1.2m、短辺約62cm(検出長)、深さ約28cmの規模である。土器の細片が出土したのみで、明確な時期はわからない。

SK-2

トレンチNo 5で検出された土壙である。長さ約1.7m、幅約75cm、深さ約30cmで、舟形の平面形を有する。西端を別のピット、SP-1に切られている。遺物は少量で、細片ばかりであるが、時期的には弥生時代後期後半と思われる。

SP-1

長径約32cm×短径約28cmで、ほぼ円形を呈する。深さは約10cmである。埋土から、16世紀の土鍋片が1点検出された。

トレンチNo 5からは、このほかに大小12基のピットが検出されたが、いずれからも遺物は出土しなかった。

第5項 遺物

1. SH-1 出土遺物

住居内の上層から最下層まで、おびただしい土器が投棄されていた。土器の間に土が堆積している状況であり、大中遺跡における、第1土器群や第3土器群の様相と似ていると思われる。図示できた個体は全部で90点あった。器種は、壺・甕・鉢・高壠・器台等である。

甕は口縁部がくの字状に外反し、体部にタタキメを残す甕Aが大半を占める。甕Aは口縁端部に面をもつもの（1、3、4、5、6、7、8、9、10、12、13、14、15、17、19、21）と、面を持たず丸く収めるもの（2、18、20）がある。面をもつものには、端面を直立させるものや軽くハネ上がるもの（4、5、7、14、15、21）がある。

全体の大きさがわかる資料が少ないが、完形資料では25cmを超える大型品は、（11）のみである。（11）は、四国産搬入品で、これを甕Bとする。（3）は底部を欠いているが、25cm程度の大きさと思われる。

大きさの分かれる資料で、器高20cm～25cm程度の資料は（19、20）などがある。一方、（14、15、16、17、18、21）など、器高20cm未満の小型の資料が目立つ。

（1）は口縁端部に面を持ち、体部のタタキメをハケで一部消している。（3）は体部が球形となり、器表が磨滅しているが、一部タタキメが残っている。（5）は口唇部ヨコナデ手法により、直立させている。（7）は口唇部をヨコナデし、体部に右上がりタタキを施す。体部は球形に近い。（8）は口縁部ヨコナデにより、わずかに甘い面をつくっている。体部に右上がりのタタキを施す。（9）は体部磨滅により、調整が分かりにくいが、わずかにタタキメを観察できる。体部内面に輪積み痕が残る。（10）は体部内面に板ナデを施す。

（11）は四国産の甕で、搬入品である。口縁部は短く水平に開き、端部をはね上げる。色調は褐色を呈し、胎土に金雲母を含む。体部外面上位をハケで処理し、下位はヘラミガキする。内面には指頭痕を残す。これを甕Bとする。1点のみ出土している。

（16）は直立ぎみに外傾して立ちあがる口縁部をもち、体部をハケのみで処理している。体部中位に段差が生じているが、これは、体部接合の際の不整合によるものと思われる。これを甕Cとする。1点のみ出土している。（18）は小型の甕である。磨滅により、体部の調整痕は判断しにくい。

壺は体部が球形化する資料が多く、(1 4)などでは、細いタタキによる連続螺旋タタキが見られる。(2 5)も小型の壺である。外面にタタキ、内面調整はハケで処理する。(3 1)は底面にタタキメが残る。(3 3)は有孔鉢の底部である。底面は少し上げ底となる。

壺は直立する頸部に、外反する口縁部が付く、壺Aが多くを占める(3 6～4 9)。口縁部が水平方向に強く開く(3 6、4 3、4 4)と斜めに外反して開く(3 7、3 8、3 9、4 0、4 1、4 2、4 5、4 6、4 7、4 8、4 9)に分けられる。

(3 6)は口縁端部に面を持ち、端部を下方に少し引き下げている。頸部内面はヨコヘラミガキで処理する。体部中位が強く張り、体部上位の調整はハケ後、ヘラミガキ。内面をハケで処理する。

(3 7)は偏球形の体部となり、体部外面をタテハケ、内面に指ナデ痕が残る。(4 0)は肩の張る体部となり、頸部外面にタテヘラミガキ、体部外面中位にヨコヘラミガキを施す。(4 1)は丈高な体部であるが、最大径は体部中位にある。体部外面上～中位はタタキ後、一部をハケで消している。下位はタテヘラミガキを施している。(4 4)は直立する頸部に、水平方向に大きく開く口縁部が付き、体部外面の調整は、斜め方向のヘラミガキ処理としている。(4 6)は直立する頸部に、外反する口縁部が付く小型の広口壺で、頸部外面の調整はタテヘラミガキである。(4 7)は小型の広口壺で、口縁端部に擬凹線文を施す。頸部外面の調整はタテヘラミガキである。(4 9)は小型広口壺で、口縁部は短く外反する。頸部外面はタテハケで処理し、竹管文を施す。

(5 0)は小型の広口壺の口縁部と思われる。口縁端部を肥厚させ、擬凹線文を4条施す。これを壺Bとする。

(5 1～5 4)は長く直立する頸部に、強く外反する口縁部が付く壺である。これを壺Cとする。長頸広口壺に分類できるタイプである。(5 1)は口縁端部をね上げている。頸部外面の調整はナナメハケ後、タテヘラミガキ、内面はヨコハケ後、ヨコヘラミガキである。(5 2)は口縁端部に擬凹線文を一条施し、頸部外面の調整はタテヘラミガキ処理し、肩部にタテハケメが残る。(5 3)は頸部のみで、口縁部の形態はわからない。外面の調整はタテヘラミガキ、内面はヨコハケである。

(5 5、5 6)は細頸壺の口頸部である。これを壺Dとする。(5 5)は口縁部がすこし内湾ぎみとなる。(5 6)口縁部がラッパ状に開き、擬凹線文を一条施している。

(5 7)は偏球形の体部に、小さく、不安定な底部が付く。(5 8)は口縁部から体部へ曲線的につながる細頸壺の体部である。

(5 9～6 4)は、短い頸部に、短く外反する口縁部に体部が付く、広口壺である。これを壺Eとする。

(6 5)は大きく張り出す体部に、外傾して立ち上がる口縁部が付く直口壺である。これを壺Fとする。(6 6)は小型の直口壺である。これを壺Gとする。外面はハケ調整である。(6 7)は壺Hとする。体部から口縁部へ曲線的に移行する。内面には、輪積

み痕が顕著に残る。(68、69)は壺Iとする。二重口縁壺で、(68)は口縁部に円形浮文を貼り付ける。(69)は小片であるが、口縁部上端に竹管文、その下に波状文を施す。(70)は球形を呈する壺の体部である。外面上位および下位をタテヘラミガキで調整後、中位をヨコヘラミガキする。

(71)は逆円錐台形の有孔鉢である。体部にタタキを施す。底面は上底となる。(72)は底部が尖底となる有孔鉢である。体部にタタキを施す。(73)は皿状の浅い体部をもつ鉢である。内面にハケメが残る。(74)は小型の脚付壺である。これを壺Jとする。1点のみ出土している。磨滅が激しく、調整痕は観察しにくい。

(75、76)は、屈曲して外反する口縁部を持つ高壺である。これを高壺Aとする。(77、78、80)は、浅い皿状の壺部を持つ高壺である。これを高壺Bとする。(80)は、口縁部外面に擬凹線文を施す。(79)は斜め上方に立ちあがる壺部から、外反する口縁部が連続的に移行する。短い柱状部に、大きく開く裾部がつく。これを高壺Cとする。一点のみ出土している。(84)は脚部であるが、柱状部内面は中空で、裾部は屈曲して開く。

(87)は大型の器台である。口縁端部を肥厚させ、端面に擬凹線文を4条施している。粗製品である。体部に2段の円孔を穿っている。(88、89)は器台の一部である。口縁部を欠いている。いずれも体部に透孔をあけ、外面をヘラミガキ調整する。

(90)は製塙土器のようにも見えるが、2次的加熱は受けていない。内面の調整も丁寧である。山本三郎氏の製塙土器編年(兵庫・播磨・摂津『日本製塙土器研究』1994年)にも、このタイプが無いことから、ここでは脚台付きの小型鉢形土器としておく。
2,SD-1 出土土器

破片は多いが、図示できたのは20点である。壺はいずれも端部に面を持たない(91、92、99、100)が主体となる。また、体部にタタキを残すものが多い。(91、92、94、99、103、106)。(94)は壺の体部である。外面に右上がりタタキ、内面調整はハケである。

(95)は高壺Aである。口縁部の発達があまり見られない。(96)も高壺である。口縁部を欠いている。柱状部は中実である。(97)は小型高壺の脚部である。(104)は小型の鉢の体部である。(105)は小型高壺の脚部片と思われる。

3,SK-2 出土土器

4個体を図示した(111~114)。いずれも小片である。(112)は広口壺の口縁部である。(113)の底部には右上がりタタキが残り、底面はすこし、上底となる。(111、113、114)のいずれも平底となる。

4,SP-1 出土土器

1個体のみである。SP-1は、SK-2を切るピットである。(115)は、土鍋片で、頸部に強いヨコナデを施す。口縁端部は丸みをおびる。内面には、荒いハケ調整を施している。鉢は短く、直立気味に立ちあがる。

第2表 出土遺物観察表

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	諸特	胎土・焼成
1	壺A	SH-1	口径 18.8 残存高 15.2 残存度 口縁部1/3	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄褐色	口唇部、ヨコナデ 体部外面、右上がりタキのちタハケ 体部内面、亮いヨコハケ	胎土 2mm以下の石粒含む 焼成 やや軟 外面に保付層
2	壺A	SH-1	口径 16.2 残存高 13.6 残存度 口縁部1/3	外面 棕～浅黄褐色 内面 棕～浅黄褐色	口縁部、丸くおさめる 口縁部、叩き出し手法 体部外面、右上がりタキ 体部内面上端部、指揮圧痕あり タハケ	胎土 2～4mm程度の石粒含む 焼成 硬
3	壺A	SH-1	口径 18.3 残存高 22.3 残存度 口縁部1/3	外面 淡白色 内面 棕色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、左上がりタキのちナデ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 体部内面中央下位に、墨跡あり
4	壺A	SH-1	口径 18.6 残存高 9.0 残存度 口縁部1/2	外面 にぶい黄褐色 内面 黒褐色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、右上がりタキのちハケ 体部内面上位、指揮圧痕あり 体部内面ナデ 横方向ハケ	胎土 1～5mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 内面に墨斑あり
5	壺A	SH-1	口径 15.8 残存高 6.7 残存度 口縁部1/4	外面 棕色 内面 棕色	口唇部、ヨコナデ手法 口縁部、ヨコナデ 体部外面、右上がりタキ 体部内面、指揮圧痕あり ナデ一部残る	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟
6	壺A	SH-1	口径 13.0 残存高 8.8 残存度 口縁部1/3	外面 淡黄褐色 内面 淡黄色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、右上がりの亮いタキ 体部内面、ハケメわずか残る	胎土 1～2mm程度の石粒含む 焼成 軟
7	壺A	SH-1	口径 14.0 残存高 15.0 残存度 口縁部2/3	外面 淡黄色 内面 淡白色	口唇部、ヨコナデ手法 口縁部、ヨコナデ 体部外面、右上がりタキ 体部内面、ハケメー羽根残る	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 体部外面に保付層
8	壺A	SH-1	口径 14.4 残存高 8.1 残存度 口縁部1/3	外面 淡褐色 内面 淡褐色	口唇部、ヨコナデ手法 口縁部、ヨコナデ 体部外面、右上がりタキ 体部内面、指揮圧痕あり 輪様み痕あり 表面剥離	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
9	壺A	SH-1	口径 12.4 残存高 9.0 残存度 口縁部1/2	外面 淡黄褐色 内面 淡黄褐色	口縁部、内外面ヨコナデ 体部外面、右上がりタキのちタハケ 体部内面、輪様み痕あり	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
10	壺A	SH-1	口径 13.7 残存高 15.2 残存度 口縁部2/3	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい褐色	口縁部外面、ヨコナデ 体部外面、右上がりタキのちハケ 体部内面、ボナデ、ハケ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	器形	胎土・焼成
11	壺B	SH-1	口径 15.3 底径 6.4 器高 30.0 残存度 口縁部9./10	外面 桃色 内面 にぶい褐色	口縁部、わずかにハネ上げる 口縁部外側、ヨコナデ 体部外面上位、横いハケ 体部外面下位、へらみガキ 体部内面、指捺圧痕あり 指捺えナデ 四面産業品	胎土、金雲母含む 焼成 やや軟 体部外面及び体部内面に黒斑あり
12	壺A	SH-1	口径 12.2 底径 7.6 器高 26.0 残存度 器部1./2	外面 桃色 内面 淡黄色	口縁部、ヨコナデ 口縁下位、タテハケの上からヨコナデ 体部外面、右上がりタタキ 体部内面、全体に指捺圧痕あり 削減	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
13	壺A	SH-1	口径 17.2 底径 7.1 器高 26.0 残存度 口縁部1./8	外面 淡黄色 内面 淡黄色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、右上がりタタキ 体部内面、輪様み痕あり	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
14	壺A	SH-1	口径 12.9 底径 3.8 器高 16.7 残存度 口縁部1./3	外面 棕~灰褐色 内面 灰白色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、連續ラセントタキ 体部内面、ヨコハケ	胎土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面下位に黒斑あり
15	壺A	SH-1	口径 13.1 底径 10.5 器高 26.0 残存度 口縁部2./3	外面 棕色 内面 淡黄褐色	口縁部、ヨコナデ手法、指捺圧痕あり 体部外面、表面削減 底部タタキ痕跡あり 体部内面、表面削減	胎土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部内面に黒斑あり
16	壺C	SH-1	口径 12.9 底径 17.7 器高 4.1 残存度 口縁部1./8	外面 淡黄褐色 内面 淡黄褐色	口縁部、ナデのちハケ 体部外面、タテハケ 体部内面上位、ナデ 下位、ハケ 底部内面、ナデ 堆合痕あり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 外面底部～体部下位に黒斑あり
17	壺A	SH-1	口径 12.2 底径 4.1 器高 18.3 残存度 口縁部1./8	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄褐色	口縁部、ヨコナデ 体部外面上位、タテヘラミガキ 体部外面中位、水平方向タタキ 体部外面下位～底部、右上がりタタキ 体部内面、ナデ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 外面底部～体部底部に黒斑あり
18	壺	SH-1	口径 11.6 底径 3.9 器高 18.6	外面 灰白色 内面 茶白色	口縁部、叩き出し手法 体部外面、右上がりタタキわざかに残る 体部内面、ナデ 輪様み痕あり	胎土 1~5mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面、底部に黒斑あり
19	壺A	SH-1	口径 13.0 底径 21.1 器高 4.1	外面 梅灰色 内面 梅灰色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、右上がりタタキ 体部内面、ナデか 削減 指捺圧痕あり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 体部外面、下位～底部全体に黒斑あり

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	諸 種	胎土・焼成
20	壺A	SH-1	口径 12.4 底径 4.5 器高 20.8 残存度 口縁部2/3	外面 にぶい褐色 内面 褐灰色	口縁部、叩き出し手法 口縁部外周、タキ 体部外面上半部、水平方向タキ 体部外面下位～底部、右あがりタキ 体部内面、ナナメハケ 底面、木裏痕あり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 体部外面、胴部に墨斑あり
21	壺A	SH-1	口径 16.2 底径 4.4 器高 19.0	外面 反白～橙色 内面 にぶい褐色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、水平方向～右上がりタキ 体部内面、ハケ、へら圧痕あり	胎土 3mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面、底部に墨斑あり
22	壺	SH-1	底径 4.3 残存高 18.2	外面 にぶい褐色 内面 増色	体部外側、右上がりタキのちタチハケ 底部外側、指頭圧痕あり 体部内面、ハケのちナデ 体部内面下半部、ハケ 底面、上げ底	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面下位～底部に墨斑あり
23	壺	SH-1	底径 4.5 残存高 11.8	外面 漆黒色 内面 棕色	体部外面中位、ヨコハケ 水平方向タキ 体部外面下位～底部、右上がりタキ 体部内面、ハケ 底部内面、放射状へら圧痕あり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 軟 体部外面下位1/4に墨斑あり
24	壺	SH-1	底径 3.5 残存高 10.9	外面 棕色 内面 オーブ墨色	体部外面、右上がりタキ 底部外面、指頭圧痕あり 体部内面、ナデ 底部内面、放射状へら圧痕あり	胎土 1～2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
25	壺	SH-1	底径 3.1 残存高 13.0	外面 にぶい褐色 内面 増色	体部外面上～中位、水平方向に近い 右上がりタキ 体部外面下位、右上がりタキ 体部内面、ヨコハケ	胎土 3mm以下の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面に墨斑あり
26	底部	SH-1	底径 3.8 残存高 9.6	外面 棕色 内面 浅黄褐色	外腹、右上がりタキ 内腹、變減 底部内面、放射状へら圧痕あり	胎土 3mm以下の石粒含む 焼成 やや軟 体部下位～底部外壁と内面に墨斑あり
27	底部	SH-1	底径 4.6 残存高 8.8	外面 反褐色 内面 反黄褐色	外腹、右上がりタキ 内腹、タチハケ 底部内面、放射状へら圧痕あり	胎土 1～3mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 内面に墨斑あり
28	底部	SH-1	底径 5.1 残存高 9.5	外腹 増色 内腹 棕色	外腹、右上がりタキ 内腹、タチハケ 底部内面、へら圧痕あり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 外腹に墨斑あり
29	底部	SH-1	底径 5.6 残存高 10.0	外腹 にぶい黄褐色 内腹 にぶい黄褐色	外腹、右上がりタキ 底面、深状にへこむ 上げ底、木裏痕あり 内腹、ハケ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 外腹に墨斑あり
30	底部	SH-1	底径 4.3 残存高 7.9	外腹 にぶい褐色 内腹 反白色	外腹、右上がりタキ 内腹、ナナメ 變減	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや硬 体部下位～底部外壁に墨斑あり

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	調査	胎土・焼成
31	底部	SH-1	底径 4.3 残存高 9.7	外面 棕褐色 内面 にぶい褐色	外面、磨減、一部右上がりタキメ残る 内面、ナデ 底部内面、後頭圧痕あり 底面、タキメあり	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
32	底部	SH-1	底径 5.5 残存高 7.5	外面 灰白色 内面 灰白色	外面 磨減 内面 一部ハケメ残存	胎土 1~3mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 内面に黒斑あり
33	有孔鉢	SH-1	底径 3.8 残存高 6.2	外面 淡黄褐色 内面 淡黄褐色	外面 ナデか(底面) 内面 -	胎土 1~4mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部下位～底面外間に黒斑あり
34	底部	SH-1	底径 4.2 残存高 4.9	外面 灰色～褐色 内面 褐褐色	外面 ナデ 内面 指おさえ ナデ	胎土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 外周下位に黒斑あり
35	底部	SH-1	底径 4.6 残存高 5.5	外面 棕褐色 内面 淡黄色	外面、磨減 タキメ一部残存 底面、上げ窓 内面、ナデ	胎土 1mm以下のが砂粒含む 焼成 やや軟 内面に黒斑あり
36	壺A	SH-1	口径 15.2 残存高 16.5 残存度 口縁部2/3	外面 にぶい黄褐色 内面 灰黃褐色	口縁端部、わずかに磨下する 口縁部、ヨコナデ 体部外側上位、タテハケのちタテヘラカガキ 体部外側中位、ハケのヨコナデ 体部外側下位、タテハケ 口縁部内面、ヨコヘラカガキのヨコナデ 体部内面、ハケ 体部内面、ヨコナデ	胎土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外側下位に黒斑あり
37	壺A	SH-1	口径 17.8 残存高 14.8 残存度 口縁部1/3	外面 にぶい橙～赤褐色 内面 橙～灰黃褐色	頸部外面、タテハケのちヨコナデ 体部上位、タテハケ 体部半位、ヨコヘラカガキ 口縁部内面、ヨコナデ 體部内面、ハケ 体部内面、金体に後頭圧痕あり 輪積み痕あり ナデ	胎土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外側に黒斑あり
38	壺A	SH-1	口径 15.8 残存高 14.6 残存度 口縁部 1/8以下 肩部全周	外面 棕褐色 内面 赤褐色	口縁部内面、ナデ一部残存 体部、磨減 2次焼成うける	胎土 2~5mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
39	壺A	SH-1	口径 16.9 残存高 7.8 残存度 口縁部 1/4	外面 淡黄褐色 内面 灰白色	口縁端部、強いナデにより凹みあり 口縁部、ヨコナデ 底部、ハケめわざかに残る 口縁部内面、ナデ	胎土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	調 整	胎土・焼成
40	壺A	SH-1	口径 13.6 残存高 18.0	外面 淡黄色 内面 淡黄褐色	口縁部、ヨコナデ 腹部、タテヘラミガキ 体部外表面、タテヘラミガキ 体部外表面中位、ヨコヘラミガキ 体部内面上位、ナデ、指顎圧痕あり 体部内面中～下位、横方向ハケ	胎土 2～3mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面上に墨斑あり
41	壺A	SH-1	口径 16.8 残存高 30.4 残存度 口縁部全周	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄褐色	口縁部、ヨコナデ 体部外表面半部、タキのちハケ 体部外表面下位、タテヘラミガキ 体部内面、一部ヨコハケ残る	胎土 1～2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面上位に墨斑あり
42	壺A	SH-1	口径 14.3 残存高 9.5 残存度 口縁部2/3	外面 淡褐色 内面 淡黄褐色	口縁部、ヨコナデ 口縁端部をわずかにハネ上げる 口縁部、ヨコナデ 体部外表面、削減 体部内面、輪樋み痕あり 指顎圧痕あり	胎土 1mm程度の石粒含む 焼成 軟
43	壺A	SH-1	口径 16.7 残存高 9.1 残存度 口縁部4/5	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄褐色	口縁部、強いヨコナデ 体部外表面、タテハケめわざかに残る	胎土 1mm以下の中粒含む 焼成 良
44	壺A	SH-1	口径 16.7 残存高 10.0 残存度 口縁部全周	外面 淡黄褐色 内面 灰白色	口縁部、ヨコナデ 瓶部、タテハケ 体部外表面、ナデメ方向のへらミガキ 体部内面、削減	胎土 2～6mmの石粒含む 焼成 良
45	壺A	SH-1	口径 18.4 残存高 6.5 残存度 口縁部全周	外面 淡黄色 内面 灰白色	口縁端部、わずかに引き下げる 口縁部、ヨコナデ 瓶部、タテハケ シャモットあり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 良
46	壺A	SH-1	口径 13.8 残存高 7.6 残存度 口縁部3/4	外面 淡黄褐色 内面 淡黄褐色	口縁部、ヨコナデ 瓶部外表面、ヘラミガキ 瓶部内面、ナデ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟
47	壺A	SH-1	口径 13.0 残存高 5.3 残存度 口縁部4/5	外面 灰褐色 内面 灰褐色	口縁部外表面、ヨコナデ 瓶部外表面、タテヘラミガキ 口縁端部内面、強いヨコナデ 瓶部内面、ヨコハケ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 良 瓶部外面上に墨斑あり
48	壺A	SH-1	口径 15.8 残存高 7.7 残存度 口縁部1/2	外面 淡黄褐色 内面 灰白色	口縁部内面、ヨコナデ 口縁端部、上方にわずかにハネ上げる 瓶部外表面、タテハケ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 良
49	壺A	SH-1	口径 12.6 残存高 5.7 残存度 口縁部全周	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい褐色	口縁部外表面、ヨコナデ 瓶部、タテハケ、竹管文あり 口縁部内面、ヨコナデ 瓶部、ヨコハケ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや硬
50	壺B	SH-1	口径 13.6 残存高 6.2 残存度 口縁部3/4	外面 褐色 内面 褐色	口縁端部、脇田經文4条 口縁部内面、ヨコナデ 瓶部、ミガキ調整 シャモット含む	胎土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや硬

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	崩 簡	胎土・焼成
51	壺C	SH-1	口径 16. 6 残存高 18. 0 残存度 口縁部4/5	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい褐色	口縁端部をつまみ上げる 擬三段文あり 口縁部外側、ヨコナデ 腹部外側、ナナメハケのちタテヘラミガキ 口縁部内面、ヨコナデ 腹部内面、ヨコハケのちヨコヘラミガキ シャモット含む	胎土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 やや硬
52	壺C	SH-1	口径 16. 0 残存高 11. 0 残存度 口縁部1/4	外面 淡黄褐色 内面 黄褐色	口縁端部、擬三段文 口縁部外側、ヨコナデ 腹部外側、タテヘラミガキ 体部外側、タテハケ 口縁部内面、ヨコナデ 腹部内面、ヘラミガキ残存 指標圧痕あり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟
53	壺C	SH-1	残存高 12. 1 残存度 腹部9/10	外面 にぶい黄褐色 内面 灰白色	外面 タテヘラミガキ 内面 ヨコハケ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや硬
54	壺C	SH-1	口径 14. 0 残存高 9. 8 残存度 口縁部2/3	外面 淡黄褐色 内面 にぶい褐色	口縁部、ヨコナデ、わざかにつまみ上げる 擬前、タテヘラミガキ 内面、強いナデ	胎土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 うすい焼付着
55	壺D	SH-1	口径 6. 4 残存高 14. 1 残存度 口縁部全周	外面 淡黄褐色 内面 黄褐色	外面、底減 内面、ヨコナデ 輪積み痕あり シャモット含む	胎土 1~4mm程度の石粒含む 焼成 軟
56	壺D	SH-1	口径 8. 7 残存高 11. 8 残存度 口縁部全周	外面 淡黄褐色 内面 灰白色～黒褐色	外面、底減 内面、ヨコナデ 口縁部擬三段文 シャモット含む 内面、ナデ 輪積み痕あり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや硬
57	壺D	SH-1	底径 1. 7 残存高 9. 5	外面 灰色 内面 灰色	外面、ヘラミガキ基残存 内面、-	胎土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 やや硬 体部外面に墨斑あり
58	壺D	SH-1	底径 2. 9 残存高 12. 2	外面 灰白色 内面 灰白色	外面、ヘラミガキ 内面、指標圧痕あり ナデ、接合痕あり 体部外面下位に墨斑あり	胎土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面下位に墨斑あり
59	壺E	SH-1	口径 15. 2 残存高 14. 5 残存度 口縁部1/8	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄褐色	口縁部、ヨコナデ 擬前、タテハケ 体部外側、ナナメハケのちナナメヘラミガキ 口縁部内面～体部上端、ヨコナデ 体部上～下位、ヨコハケのちヨコヘラミガキ 指標圧痕あり	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや硬
60	壺E	SH-1	口径 15. 7 残存高 12. 0 残存度 口縁部1/3	外面 淡褐色 内面 墓灰色	口縁、ヨコナデ 口縁端部、擬三段文 体部外側、ハケ少し残る 体部内面、指標圧痕あり	胎土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや硬

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	調査	胎土・焼成
61	壺E	SH-1	口径 15.3 残存高 16.7	外面 淡白色 内面 淡白色	口唇部、ヨコナデ手法 腹部を少しはね上げる 口縁部、ヨコナデ 体部外沿、右上がりタキのちタテハケ 体部内面、ヨコハケ 輪積み痕あり	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面に輪郭あり
62	壺E	SH-1	口径 13.7 残存高 20.5 残存度 口縁部1/8	外面 淡黄色 内面 淡白色	体部外沿、輪郭 体部内面、ヨコハケ	胎土 1mm程度の砂粒含む 焼成 やや軟
63	壺E	SH-1	口径 20.0 残存高 13.3 残存度 口縁部1/3	外面 淡白色 内面 淡白色	口唇部、ヨコナデ手法 口縁部、ヨコナデ 体部外沿、縮いヘラミガキのちナナ子 体部内面、輪積み痕あり 指壓圧痕あり	胎土 1~4mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
64	壺E	SH-1	口径 14.5 残存高 10.7 残存度 口縁部1/2	外面 にぶい橙色 内面 淡黄色	口縁部、ヨコナデ 輪郭、タテハケ 体部外沿、右上がりタキ 体部内面、ナナ子 指壓圧痕あり	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
65	壺F	SH-1	口径 11.8 高台径 4.9 残高 20.2 残存度 口縁部全周	外面 淡黄褐色 内面 淡白色	体部内面上位、指壓圧痕あり 体部内面下位、タテハケ シャモット含む	胎土 1~5mm程度の石粒含む 焼成 軟 体部外面に輪郭あり
66	壺G	SH-1	口径 8.8 高台径 4.7 残高 17.7	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄褐色	口縁部外沿、ヨコナデ 頸部外沿、ハケ 体部外沿、ハケのちナナ子を調整 頸部内面、ヨコナデ 体部内面、ハケメ、一部残存	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや硬 体部外面に輪郭あり
67	壺H	SH-1	口径 5.6 残存高 9.5 残存度 口縁部1/4	外面 淡褐色 内面 淡黄褐色	表面剥離、外沿ナデか 内面、指壓圧痕あり 輪積み痕あり ナナ子推存	胎土 1mm程度の石粒含む 焼成 軟
68	壺I	SH-1	口径 19.0 残存高 8.3 残存度 口縁部全周	外面 淡黄褐色 内面 淡白色	口縁部を上下に拡張させる 口縁部、円形浮彫3箇1対を6ヶ所貼り付けする 頸部内面、横たわるヘラミガキ調整 体部内面、タテハケ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟
69	壺I	SH-1	残存高 4.1 残存度 口縁部1/10	外面 黄褐色 内面 淡白色	口縁上端、竹管刻文その下に波状文	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟
70	壺J 全体観	SH-1	底径 5.5 残存高 20.5	外面 淡黄褐色 内面 淡白色	体部外沿、球形 上位および下位をタテヘラミガキし、 その上から中位をヨコヘラミガキ 体部内面、輪郭 体部内面下位、タテハケ	胎土 焼成 やや軟 体部外面に輪郭あり

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	調整	胎土・焼成
71	鉢A	SH-1	底径 4.4 口径 16.0 高さ 10.8 残存度 口縁部8/10	外面 淡黄褐色 内面 淡黄褐色	外裏、右上がりタタキ 内面、ナデ痕滅 底面、上げ窓 有孔跡	胎土 2mm程度の石粒含む 焼成 粗 口縁部外面に無い黒斑あり
72	鉢B	SH-1	底径 1.6 高さ 11.3 残存度 口縁部1/3	外面 にぶい黄褐色 内面 黄褐色	外面、水平方向に近いタタキ 内面、ハケ 底面、一孔を穿つ	胎土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 穿孔部外面に黒斑あり
73	鉢C	SH-1	口径 16.6 高さ 5.5 残存度 口縁部2/3	外面 淡黄色 内面 淡黄褐色	外裏、ナデ残る 内面、ハケめわざかに残る 底面、上げ窓	胎土 2~3mm程度の石粒含む 焼成 粗 底部外面に黒斑あり
74	小型 台付壺	SH-1	口径 5.4 残存高 12.4 残存度 口縁部全周	外面 黄褐色 内面 棕色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、縮滅 柱状部中実	胎土 1~4mm程度の石粒含む 焼成 軟
75	高坪A	SH-1	口径 25.7 残存高 8.0 残存度 口縁部1/4	外面 淡黄褐色 内面 淡褐色	削減のため内外面調整不明	胎土 1~5mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
76	高坪A	SH-1	口径 25.6 残存高 12.6 残存度 口縁部1/2	外面 反白色 内面 淡黄褐色	坪部外裏、ナデ一部残存 坪部内面、ハケのちナデ 脚部外裏、少子ヘラミガキ 柱状部内面上部中実	胎土 1mm以下の石粒含む 焼成 やや軟 体部外面に黒斑あり
77	高坪B	SH-1	口径 17.7 残存高 6.1 残存度 口縁部1/2	外面 淡黄褐色 内面 淡褐色	削減のため内外面調整不明	胎土 1mm以下の石粒含む 焼成 軟
78	高坪B	SH-1	口径 16.8 残存高 10.8 残存度 口縁部全周	外面 淡黄褐色 内面 にぶい黄褐色	坪部外裏、タ子ヘラミガキ 坪部内面、少子ヘラミガキ 柱状部外裏、タ子ヘラミガキ 柱状部内面中実 シャモット含む	胎土 1mm以下の石粒含む 焼成 軟
79	高坪C	SH-1	口径 16.0 底径 13.5 高さ 10.3 残存度 口縁部1/2	外面 淡黄褐色 内面 棕色	内外面、縮滅 柱状部内面中空 透孔1個残存	胎土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
80	高坪D	SH-1	口径 15.0 残存高 9.2 残存度 口縁部9/10	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄褐色	脚部線あり 内外面縮滅により調整不明 柱状部内面中空	胎土 1~4mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
81	高坪D	SH-1	残存高 9.8	外面 棕色 内面 棕色	环形、内外面縮滅 脚部外裏、ヘラミガキ 脚部内面、ヘラケズリ 柱状部内面中空	胎土 1~3mm程度の石粒含む 焼成 軟

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	調査	備考
82	高环脚部	SH-1	底径 17. 5 残存高 10. 1	外面 灰白色 内面 灰白色	裾部、透孔3個残存 内外面、磨滅 剥剝層凹線文	粘土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや硬
83	高环脚部	SH-1	底径 17. 0 残存高 13. 4	外面 灰白色 内面 にがい黄褐色	外面、テテハケメ残存 柱状部内面、絞り目あり ハケメ残る 透孔2個残る	粘土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや硬
84	高环脚部	SH-1	底径 18. 0 残存高 12. 0	外面 淡黄色 内面 赤褐色	透孔4個 外面、へうじがきか 脚部、剥剝層文 柱状部内面中空	粘土 1~3mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
85	高环脚部	SH-1	底径 17. 2 残存高 9. 9	外面 浅黄色 内面 淡褐色	外面、磨滅 裾部、透孔4個 柱状部内面、絞り目あり 柱状部上端中空	粘土 1~3mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
86	高环脚部	SH-1	底径 9. 7 残存高 6. 3	外面 灰白色 内面 灰白色	内外面、痕滅のため調整不明 柱状部内面中空	粘土 2mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
87	器台	SH-1	底径 24. 6 基高 14. 4 残存度 口縁部1/2	外面 灰黃褐色 内面 桃紅色	口縁部を肥厚させ、3~4条の浅い凹線文を施す 口縫部、ナデ 体部外面、ハケ、ナデ 体部、透孔2段を3列 内面、ハケ、へうじがき	粘土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや硬 口縁部外面に墨跡あり
88	器台	SH-1	残存高 13. 0	外面 淡黄色 内面 灰白色	外面、テテハラジガキ 内面、ハケメー郎残存 透孔7個残存	粘土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
89	器台	SH-1	底径 17. 2 残存高 9. 9	外面 にがい黄褐色 内面 にがい黄褐色	外面、へうじがき 内面、ハケ、ナデ 指頭圧痕あり 透孔4個残存	粘土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや硬
90	小型脚台付 鉢形土器	SH-1	口径 10. 0 底径 5. 6 基高 11. 1 残存度 口縁部3/4	外面 浅黄色 内面 浅褐色	口縫部、ヨコナデ 体部外面、水平方向タタキ 剥剝層内面、指頭圧痕あり	粘土 1mm程度の石粒含む 焼成 軟
91	壺A	SD-1	口径 17. 4 残存高 6. 0 残存度 口縁部1/2	外面 赤褐色 内面 にがい赤褐色	口縫部、叩き出し手法 右上がりタタキのちナデ 体部外面、右上がりタタキ 体部内面、表面剥離のため不明	粘土 1~2mm程度の石粒含む 焼成 軟
92	壺A	SD-1	口径 16. 4 残存高 4. 4 残存度 口縁部1/3	外面 浅黄色 内面 灰白色	口縫部を丸くおさめる 口縫部、ヨコナデ 体部外面、右上がりタタキ	粘土 1mm程度の石粒含む 焼成 やや軟
93	壺A	SD-1	底径 4. 1 残存高 17. 1	外面 浅黄色 内面 灰白色	体部外面、磨滅 体部内面、磨滅 底面少し上げ度となる	粘土 1~3mm程度の石粒含む 焼成 やや軟 底面外面~体剖下位に墨跡あり

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	調整	胎土・焼成
94	甕A	SD-1	底径 5.3 残存高 12.5	外面 棕色 内面 反黄褐色	体部外観、右上がりリタキ 体部内面、ハケ	胎土 1~3mm程度の石粉含む 焼成 短
95	高环A	SD-1	口径 22.6 残存高 5.4 残存度 口縁部1/2	外面 淡黄褐色 内面 ぶい赤褐色	外周、磨滅 内面、ナデ残る	胎土 2mm程度の石粉含む 焼成 短
96	高环A	SD-1	残存高 9.6	外面 ぶい赤褐色 内面 赤褐色	内外面、磨滅 环部、ハケメーテル残存 柱状部中央	胎土 2mm程度の石粉含む 焼成 やや短
97	小型高环	SD-1	底径 14.1 残存高 6.0	外面 棕色 内面 棕色	内外面、磨滅 透孔4箇	胎土 1mm以下の砂粉含む 2mm程度の石粉含む 焼成 やや短
98	高环环部	SD-1	口径 14.0 残存高 5.4 残存度 口縁部1/4	外面 棕色 内面 灰褐色	外周、磨滅 内面、ヨコハケ	胎土 1~3mm程度の石粉含む 焼成 短
99	甕A	SD-1	口径 14.0 残存高 7.5 残存度 口縁部1/8	外面 淡黄褐色 内面 棕色	口縁部、ヨコナデ 外周、右上がりリタキ 内面、ヨコハケ	胎土 1~3mm程度の石粉含む 焼成 やや短
100	甕	SD-1	残存高 3.3 残存度 口縁部1/9	外面 淡黄褐色 内面 反白色	口縁部、ヨコナデ	胎土 1mm以下の砂粉含む 焼成 短
101	高环脚部	SD-1	残存高 3.2	外面 棕色 内面 橙灰色	外周、ヘラミガキ 内面上端中央	胎土 1mm以下の砂粉含む 2mm程度の石粉含む 焼成 良
102	高环脚部	SD-1	残存高 4.7	外面 黒褐色 内面、褐灰色	外周、磨滅 内面上端中央 破り目あり	胎土 1mm以下の砂粉含む 焼成 良
103	底部	SD-1	残存高 3.7	外面 黄褐色 内面 ぶい黄褐色	外周、右上がりリタキ 内面、磨滅	胎土 1~2mm程度の石粉含む 焼成 良
104	鋸	SD-1	底径 3.4 残存高 5.0	外面 黃褐色 内面 淡黄褐色	外周、ナデ 底部、指縫压痕あり ドーナツ底 内面、ナデ	胎土 1~2mm程度の石粉含む 焼成 やや短
105	小型高环 脚部	SD-1	残存高 5.5	外面 棕色 内面 棕色	内外面、ナデ 内面、破り目あり	胎土 1mm以下の砂粉含む 焼成 やや短
106	底部	SD-1	残存高 2.5	外面 黑褐色 内面 黑褐色	外周、右上がりリタキ 内面、磨滅	胎土 1~2mm程度の石粉含む 焼成 やや短
107	底部	SD-1	残存高 4.6	外面 橙灰色 内面 橙灰色	外周、タテハケ 内面、ハケ	胎土 1mm以下の砂粉含む 焼成 やや短

番号	器種	出土位置	法量(cm)	色調	調整	胎土・焼成
108	底部	SD-1	残存高 4.1	外面 にぶい橙色 内面 明褐色	外表面、磨滅 内面、ナデ痕 指紋圧痕あり	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟
109	底部	SD-1	残存高 1.8	外面 にぶい橙色 内面 にぶい黄褐色	外表面、タキシ 内面、磨滅	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟
110	底部	SD-1	残存高 2.2	外面 赤褐色 内面 にぶい黄褐色	内外面、磨滅	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 炙 内面に墨/げ飾付有
111	底部	SK-2	残存高 3.0	外面 淡黄褐色 内面 黄褐色	内外面、磨滅	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟
112	広口直口縁部	SK-2	残存度 口縁部1/10	外面 灰白色 内面 灰白色	口縁部外面、ヨコナデ 口縁部内面、磨滅	胎土 1~4mm程度の石粒含む 焼成 炙
113	底部	SK-2	残存高 3.7	外面 暗灰褐色 内面 淡黄褐色	外面、右上がりタキシ 内面、磨滅 底面、上げ圭	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 炙
114	底部	SK-2	残存高 2.5	外面 橙色 内面 淡黃褐色	外面、ナデ痕 内面、磨滅	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 やや軟 底部外面に墨斑あり
115	土器	SP-1	口径 31.9 残存高 5.2 残存度 口縁部1/8	外面 淡赤褐色 内面 灰白色	口縁部、ヨコナデ 体部外面、ヨコナデ 体部内面、黒いヨコハケのちタテハケ	胎土 1mm以下の砂粒含む 焼成 硬 体部外内面に墨斑あり

第4章まとめ

1. 遺跡について

手末遺跡は神野中部は場整備事業において、発見された弥生時代後期の集落遺跡である。加古川の支流である曇川の東岸に立地する。トレンチ調査であったため、制約が多いが、確認された遺構の範囲は東西約100m、南北約140mの範囲に及んでいる。

遺構は、多角形住居であるSH-1と方形プランとなるSH-2の2棟の住居跡の他、トレンチ10で検出されたSD-1、トレンチ5で検出されたSK-2などである。このうち、SH-1からは多くの弥生土器が検出された。後期における住居や溝への土器の大量投棄は、大中遺跡における第1土器群・第3土器群の存在や西村遺跡竪穴住跡3の出土状況など、近隣の遺跡にも類似がある。SH-1の時期は土器から判断して弥生時代後期後半と考えられる。SD-1出土土器も弥生時代後期後半の範囲に収まる。SH-2は遺物が出土しておらず、明確な時期は特定できない。SK-2も細片であるが、時期は、弥生時代後期後半と考えられる。

集落の全体を調査していないので確定はできないが、今回の調査結果によるかぎり、当遺跡は弥生時代後期の短期間に営まれた集落であると推定される。近隣には、平成10年の調査によって弥生後期の大型住跡が検出された神野遺跡が存在し、曇川沿岸の微高地上に弥生後期の集落が点在していた状況が伺える。

2. 出土土器について

SH-1からは図示した資料で、90点もの土器が出土した。壺は約30点が出土した。

壺は口縁部がくの字状に外反し、体部にタタキを施す壺Aが大半を占めている。タタキの上からハケを施す場合があるが、丁寧に消しているわけではない。壺Aは器高18cm以下程度の小型のものが目立ち、体部も最大径が中位にあり、丸みをおびる資料が多い。(14)などには細かいタタキによる連続螺旋タタキが見られる。また、口唇部ヨコナデ手法や口縁叩き出し手法などを使う資料が見られる。

内面の調整はハケが優勢であるが、(10)の内面調整には板ナデが見られる。また、壺Bは四国産の搬入品である。このタイプは、近隣では、大中遺跡にも搬入されている。(16)の壺は、ハケのみの調整であるが、決して古相を示すものではない。後期でも下る時期の資料であろう。壺の多くは、弥生時代後期後半でも下る時期の傾向をもつ。

広口壺は、口縁部が水平方向に開く資料が見られる。長頸壺においても、口縁部が水平方向に、強く外反するタイプが多く、これらは地域的特徴と言えそうである。

(41) や (70) の壺は、体部が丸みをもつ傾向がある。また、(42) や (48)などの資料は、ナデにより口縁端部をはね上げている。広口壺には体部と頸部の境が明瞭に屈曲しないものが見られる。

しかし、高坏(76)や(84)の高坏脚部などには、古い様相が見られる。器台(87)は粗製品であるが、大型であり、古い様相とも見える。(21)の壺体部にも、やや古い形状の印象が残る。底部～体部下半のみの資料にも、形態的にやや古い様相の資料が散見される。

これらのことから、当資料にはある程度の時期幅があると考えられる。

しかし、その中でも、多くの資料は弥生時代後期後半でも下る時期の資料と考えられる。特に壺には、その時期的傾向が出ている資料が多い。

資料の多くは、弥生時代後期を6段階に分けた場合の5・6段階に該当すると思われる。近隣の大中遺跡の資料と比較すれば、弥生時代後期後半でも下る時期と設定されている、山本三郎氏編年の大中Ⅱ式に併行するであろう。

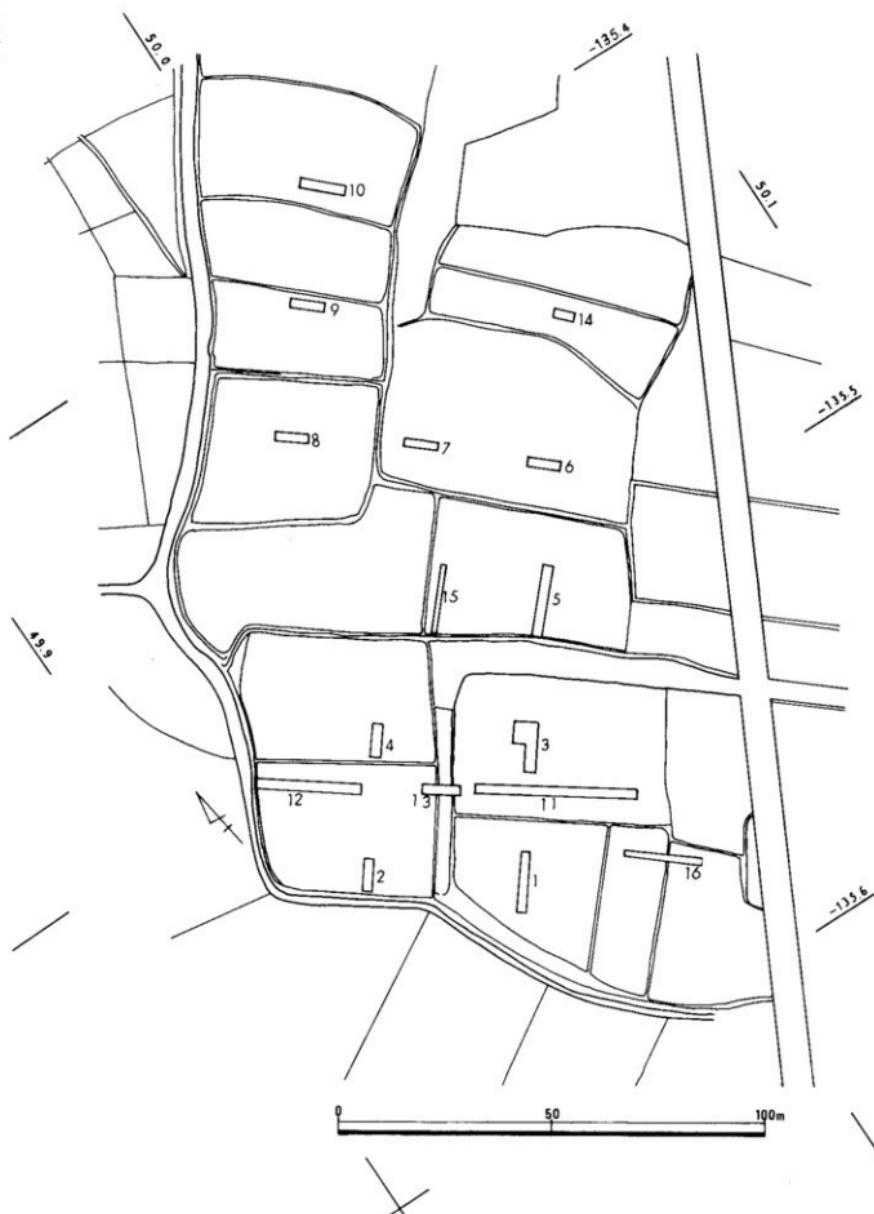
SD-1出土土器は小破片が多く、あまり良い資料ではない。総数で、20点を図示した。溝の中に土器が投棄されていたが、削平を受けているため、完形の資料はない。壺はSH-1の資料と異なり、いずれも口縁端部に面を持たない。器表面の残りは総じて悪いが、体部にはタタキメを残している。高坏(95)は、口縁部の発達があまり顕著に見られず、外反の度合いも比較的弱いといえよう。弥生時代後期後半でも、比較的古い時期の様相を持っているといえる。

SD-1出土土器の時期は、弥生時代後期後半と考えられる。

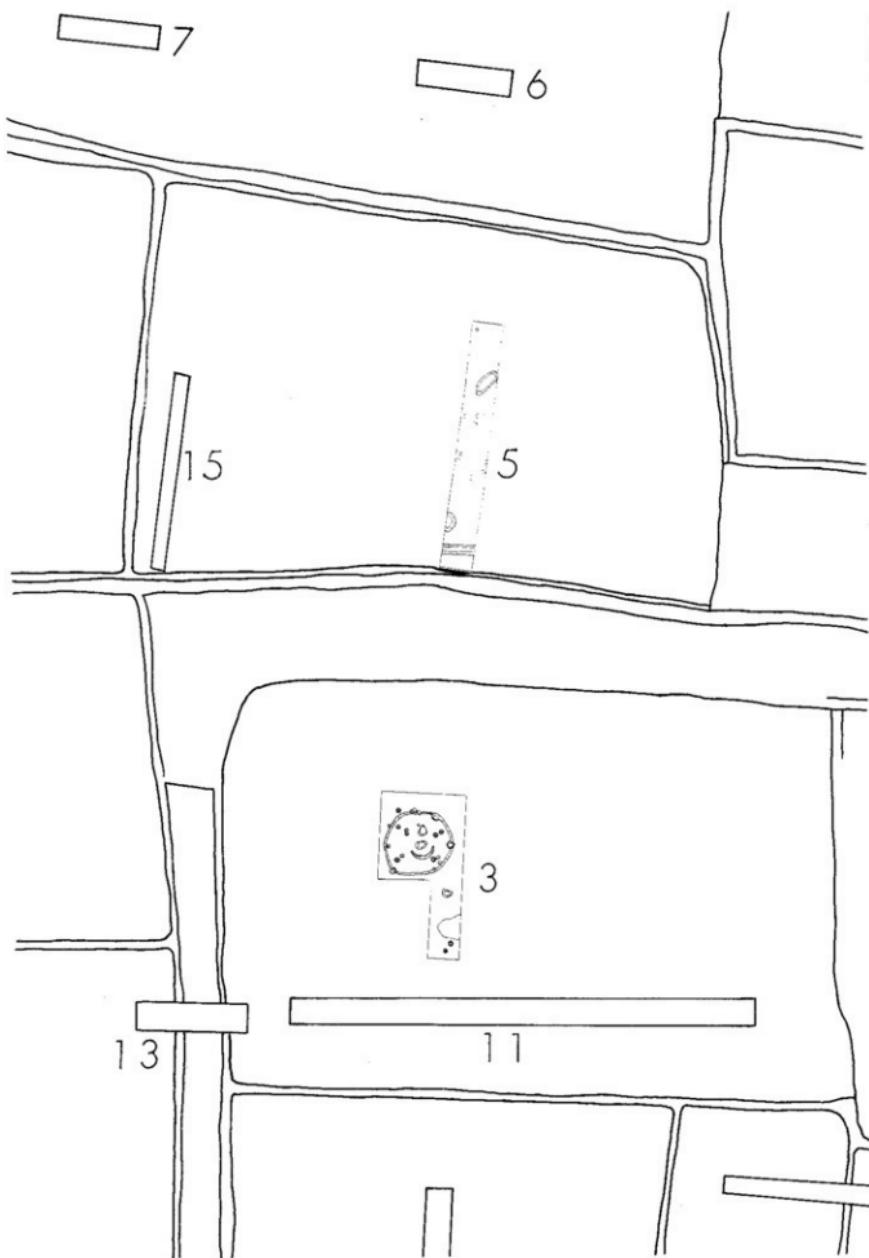
図 版



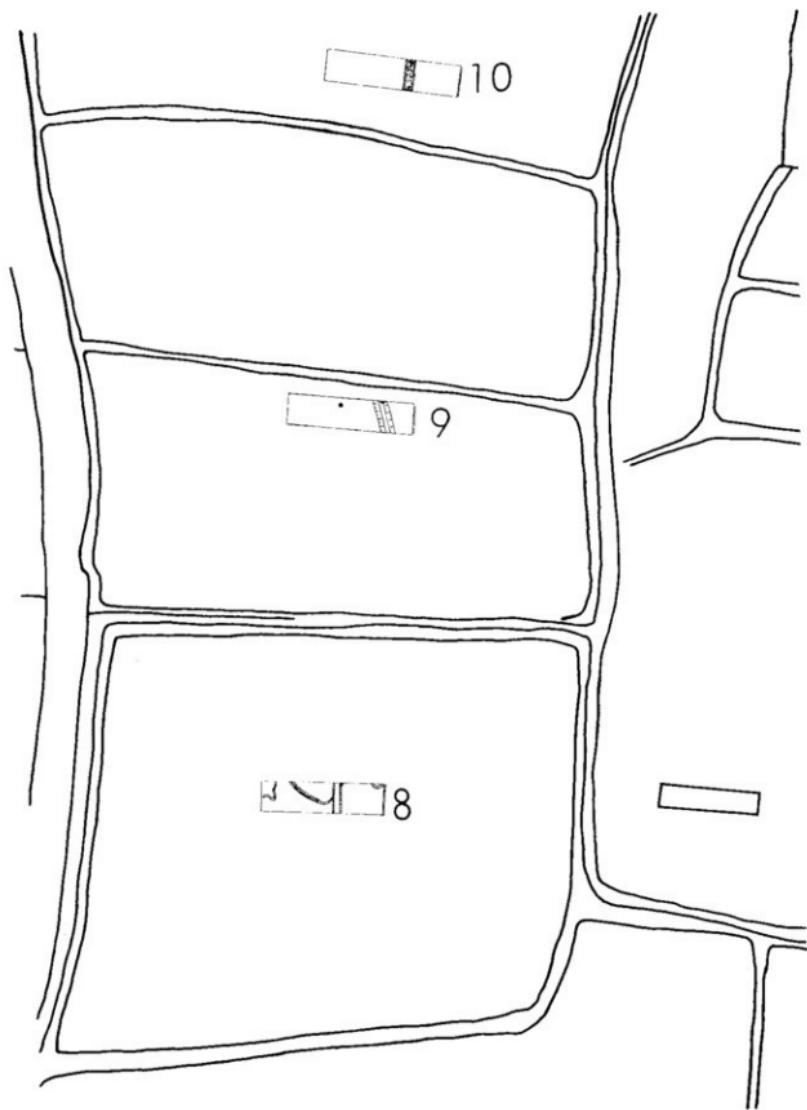
等高線復元図



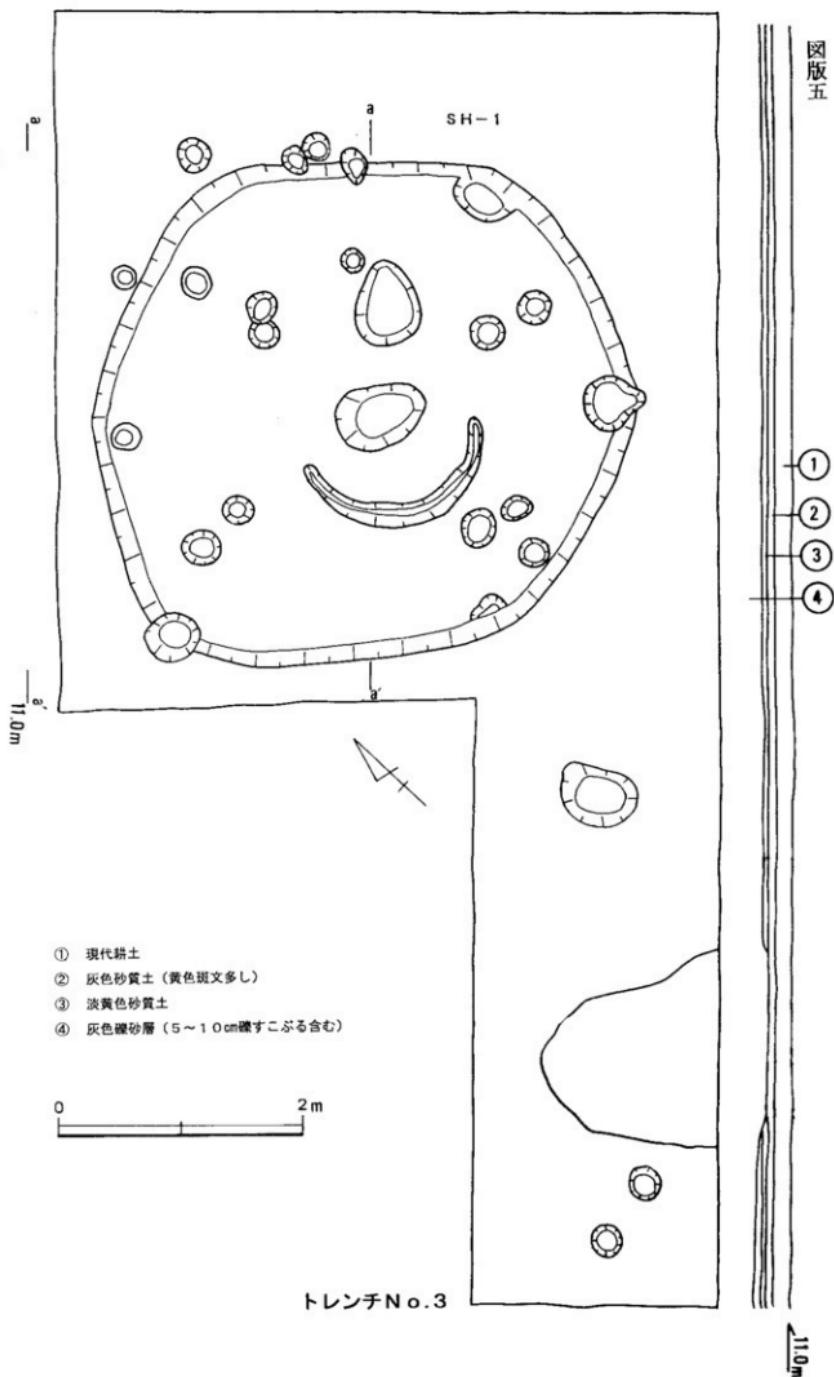
トレンチ全体配置図

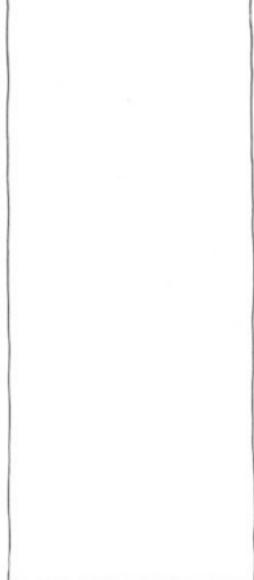


トレンチNo.3, No.5設定図



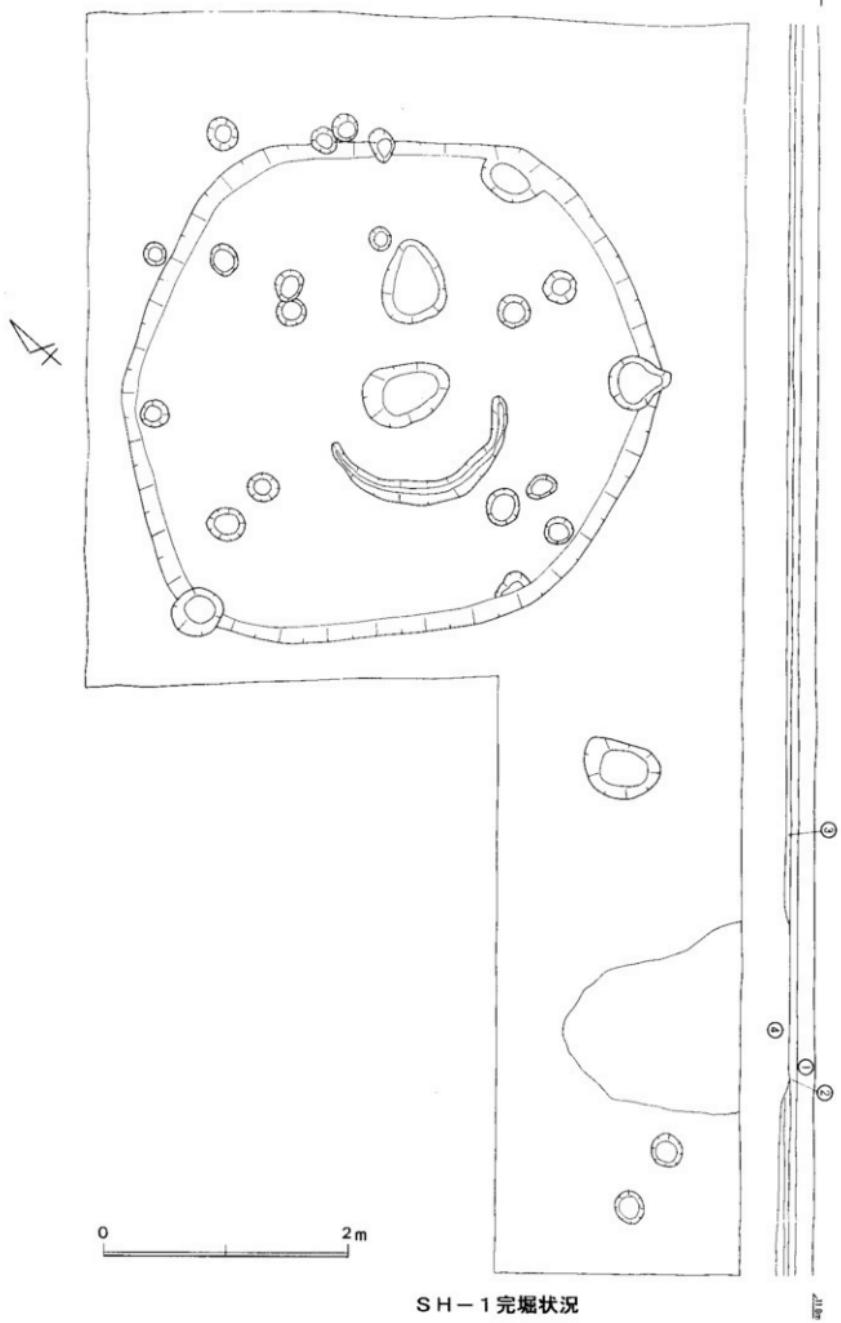
トレンチNo.8, No.9, No.10設定図



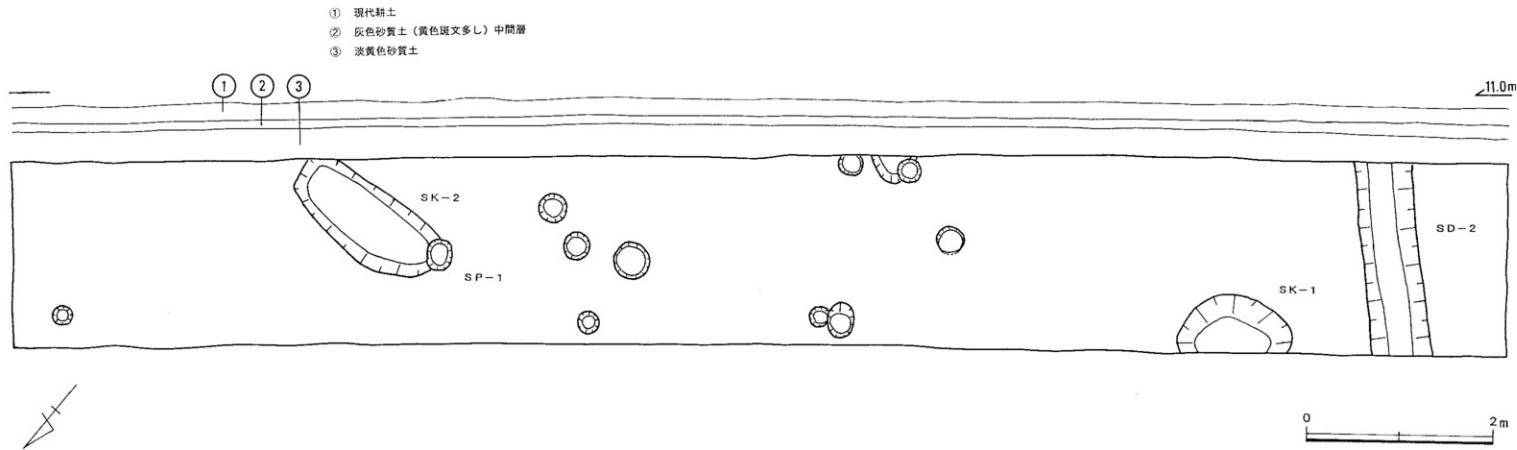


0 2m

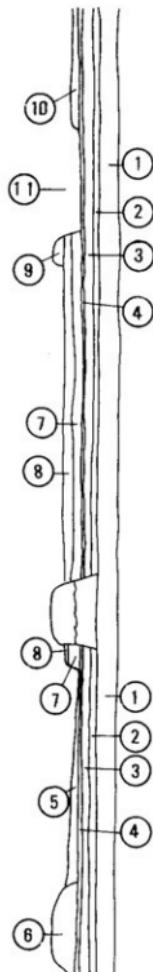
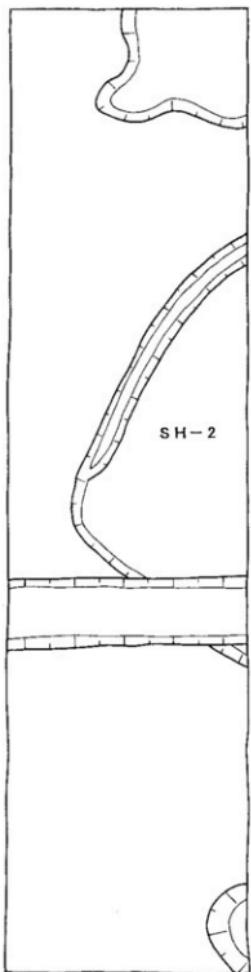
S H - 1 検出状況



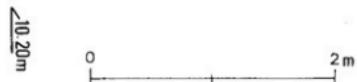
SH-1 完掘状況



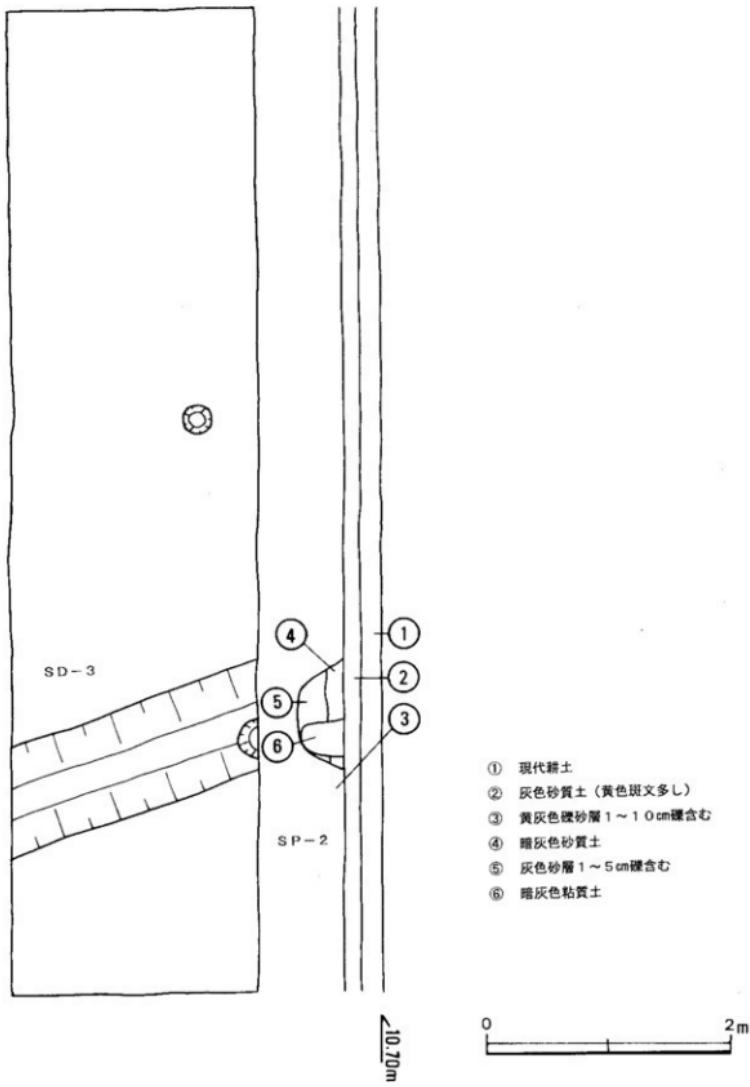
トレンチNo.5



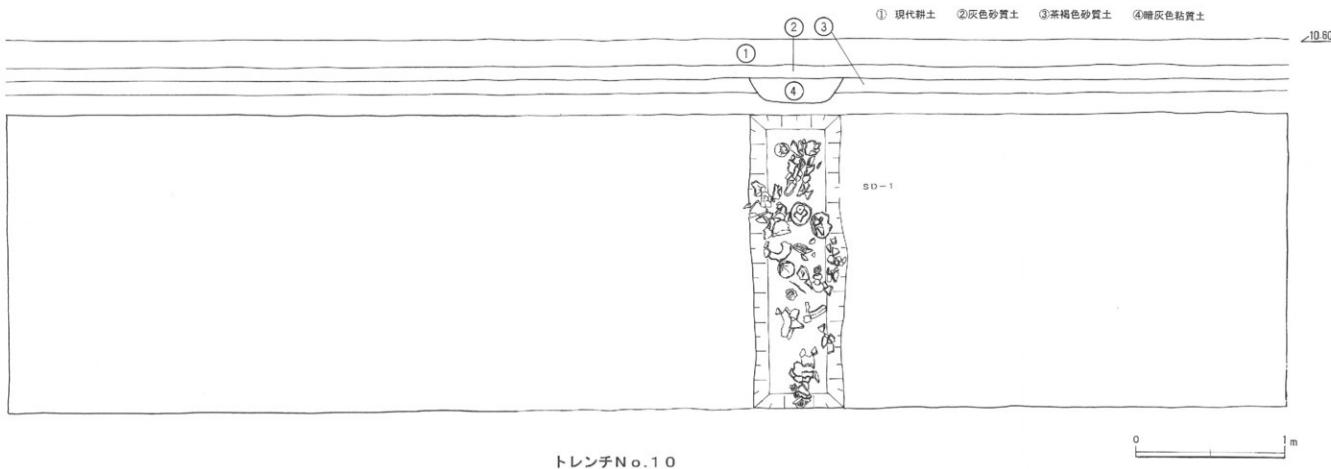
- ① 現代耕土
- ② 淡黄色砂質土（中間層）
- ③ 暗茶褐色砂質土
- ④ 淡黃棕色砂質土
- ⑤ 褐色粘質土
- ⑥ 暗褐色粘質土
- ⑦ 茶褐色粘質土
- ⑧ 暗褐色砂質層
1~5cm硬多く含む
- ⑨ 暗褐色砂質土
1~5cm硬少し含む
- ⑩ 暗褐色砂質土
1~5cm硬含む
- ⑪ 褐色砂礫層

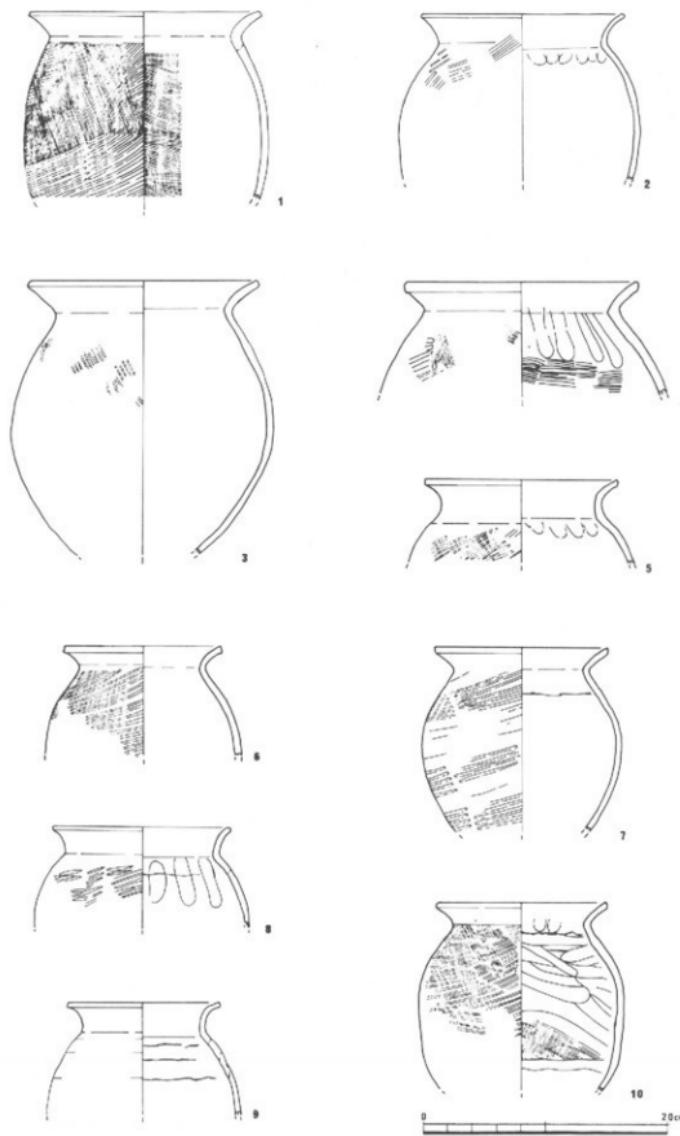


トレーンチNo.8

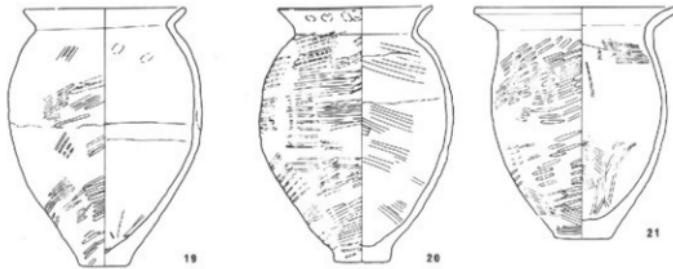
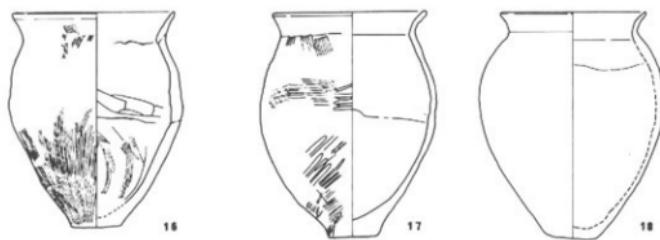
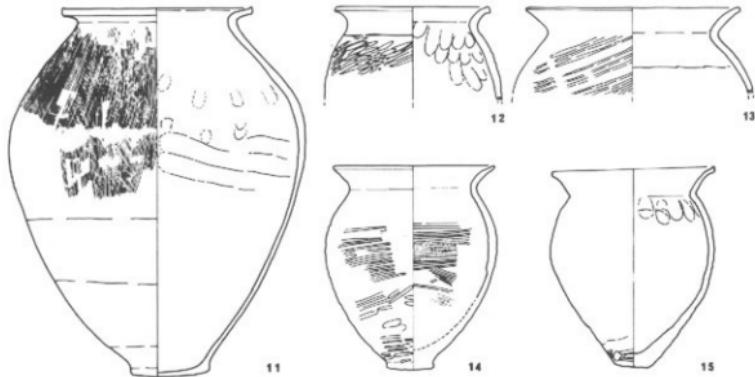


トレンチ N o. 9





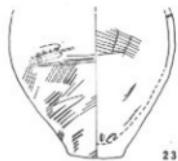
SH-1出土土器実測図



SH-1 出土土器実測図



22



23



24



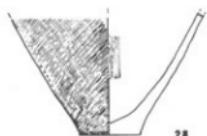
25



26



27



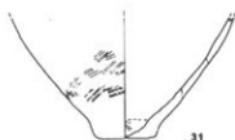
28



29



30



31



32



33



34

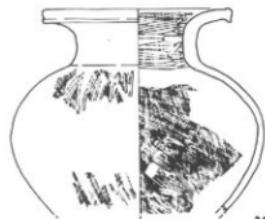


35



SH-1 出土土器実測図

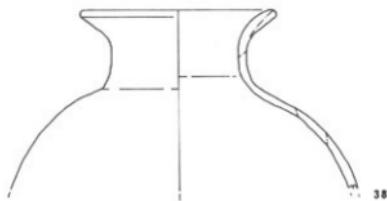
図版一五



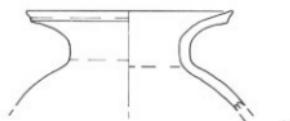
36



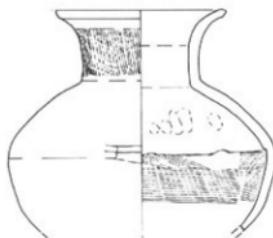
37



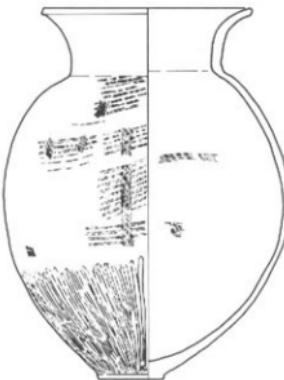
38



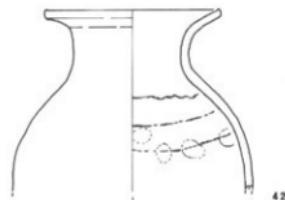
39



40



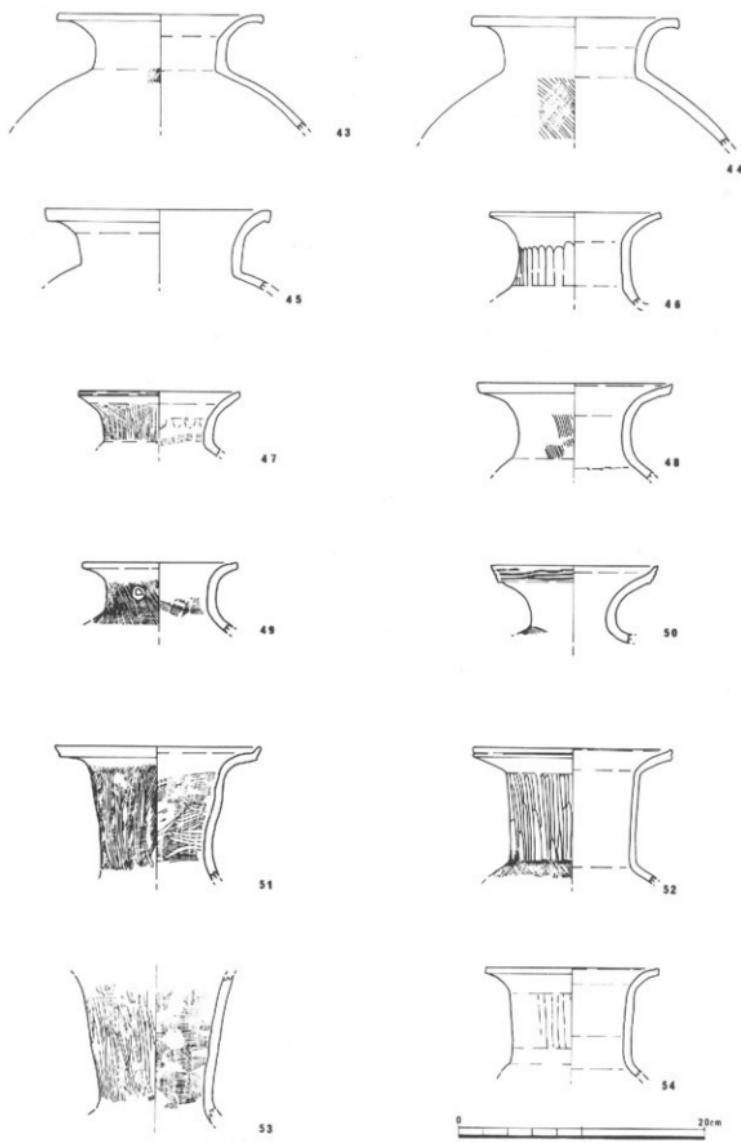
41



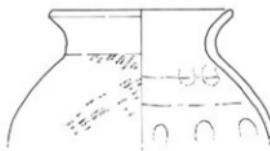
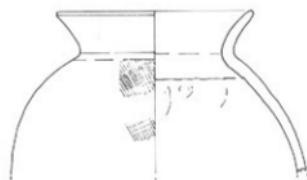
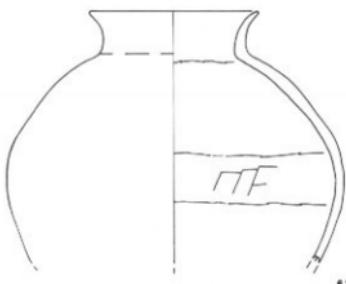
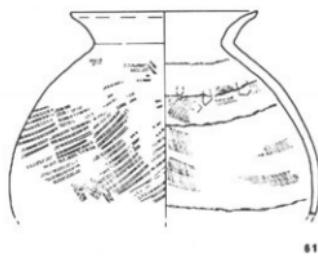
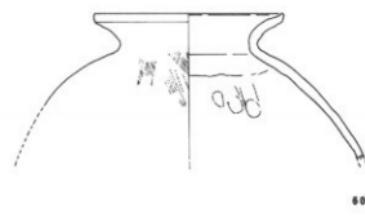
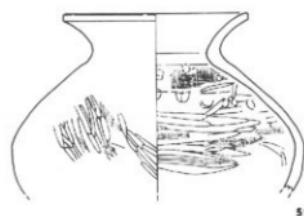
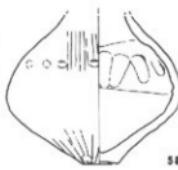
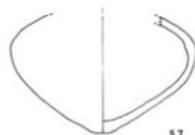
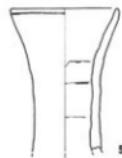
42



SH-1 出土土器実測図



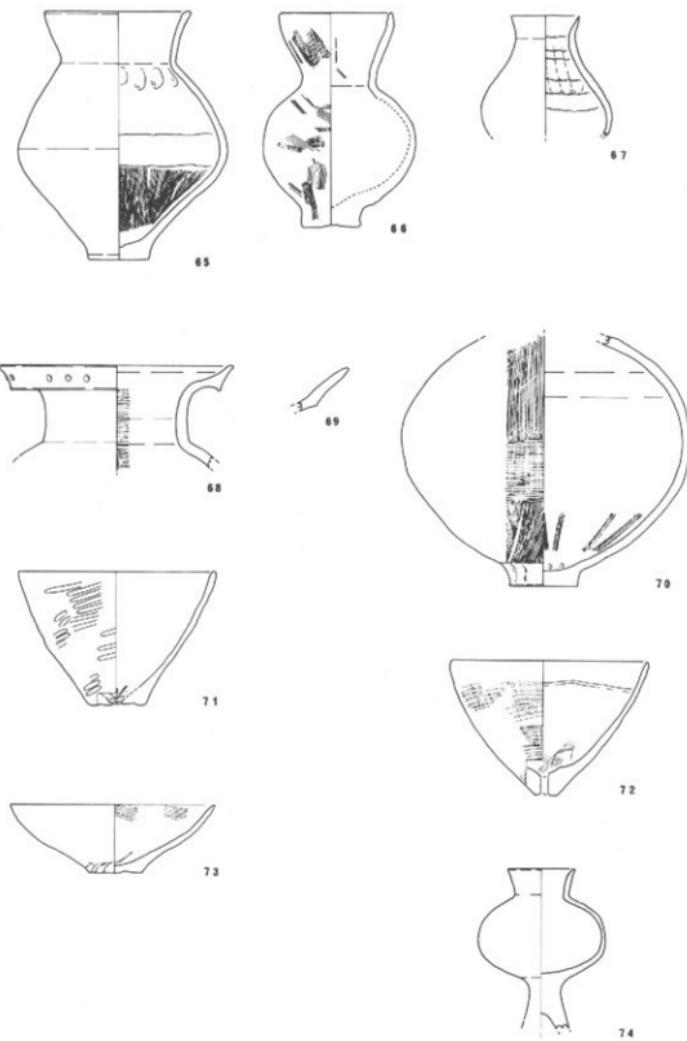
SH-1 出土土器実測図



63



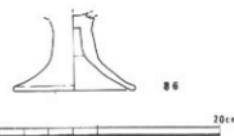
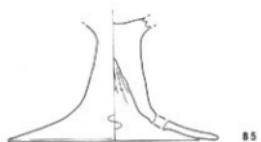
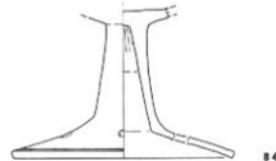
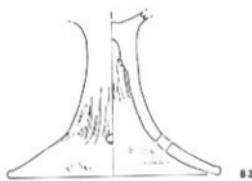
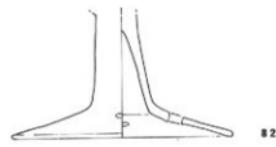
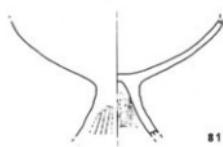
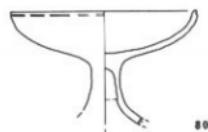
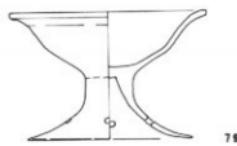
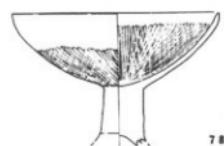
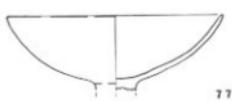
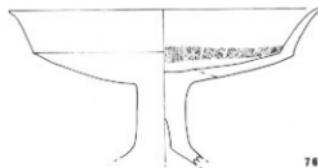
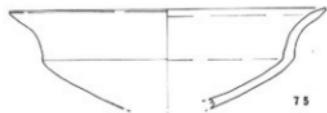
SH-1出土土器実測図



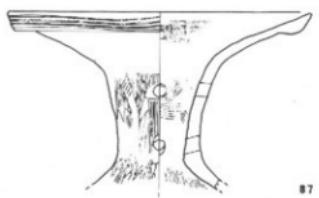
SH-1 出土土器実測図



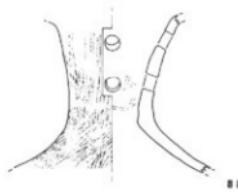
圖版一九



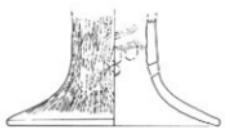
SH-1出土土器実測図



87



88



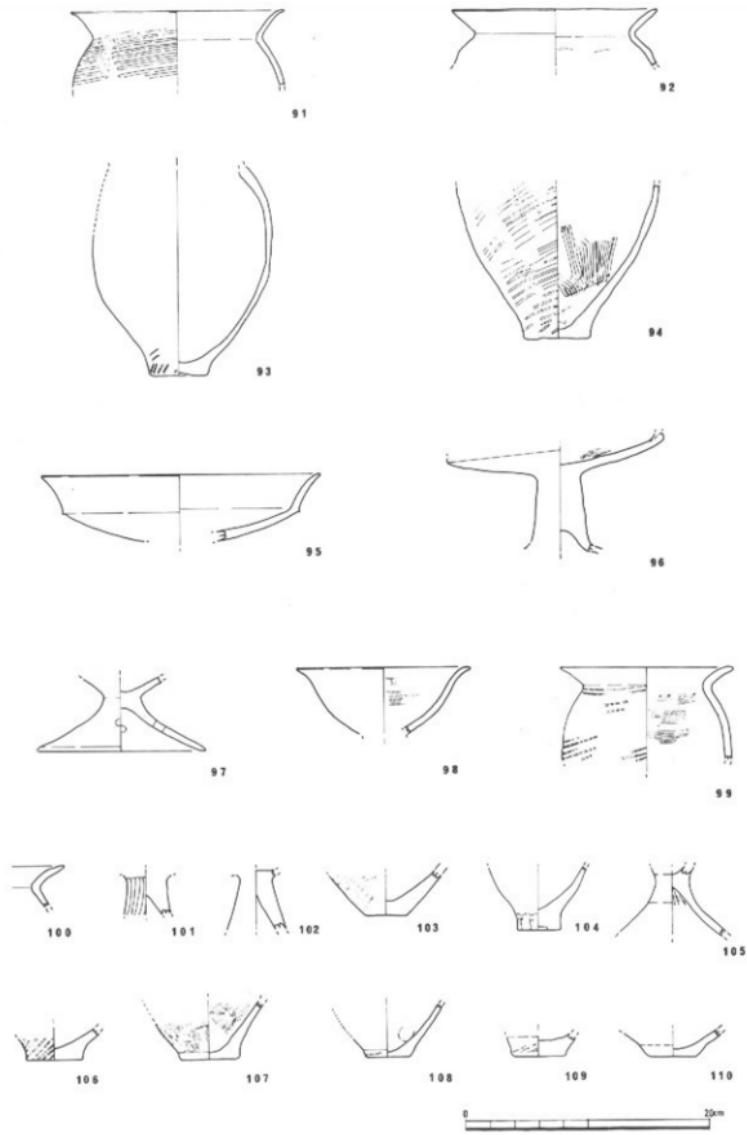
89



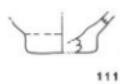
90



SH-1 出土土器実測図



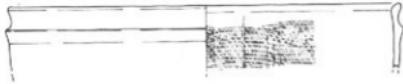
SD-1出土土器実測図



111



112



115



113



114



SK-2 (111~114) SP-1 (115) 出土土器実測図

写 真 図 版



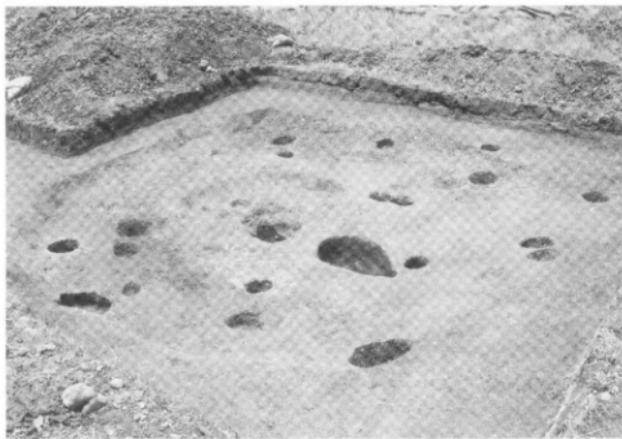
調査地全景（航空写真）



S H - 1 検出状況
(東より)



S H - 1 検出状況
(南より)



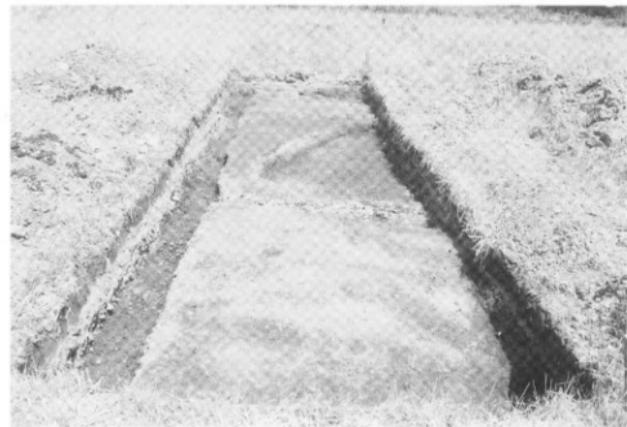
S H - 1 完掘状況



トレンチ No.5
(南西より)



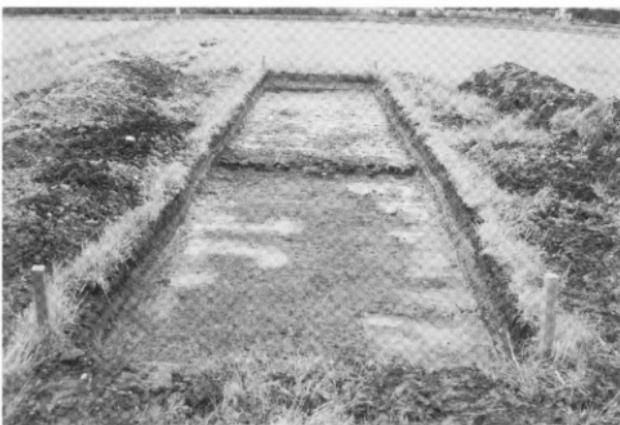
トレンチ No.5
(北東より)



トレンチ No.8
(南東より)



トレンチ No.8
SH-2 検出状況
(北西より)



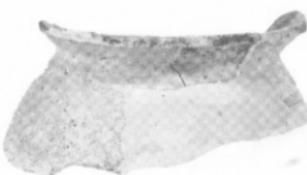
トレンチ No.10
(北西より)



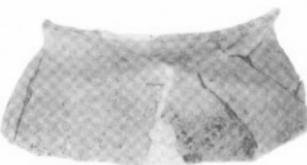
トレンチ No.10
SD-1 検出状況
(東より)



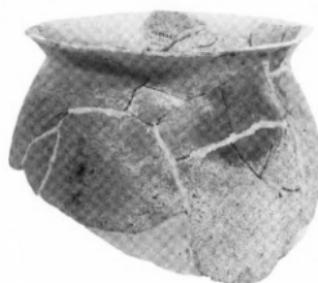
1



4



5



2



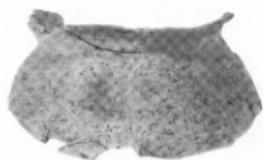
6



3



7



8



11



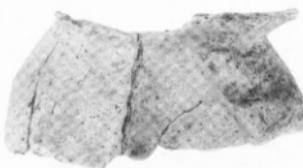
9



12



10



13



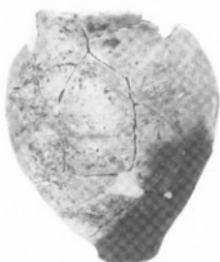
14



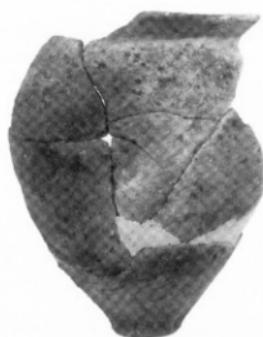
15



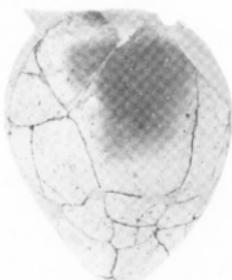
16



17



18



19



20



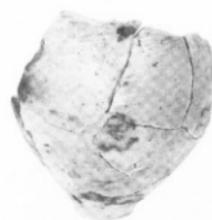
21



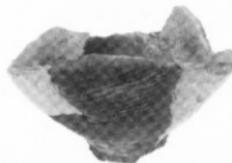
24



22



25



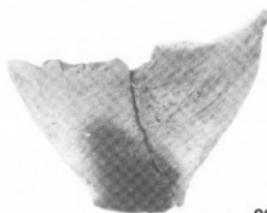
26



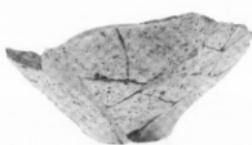
23



27



28



32



29



33



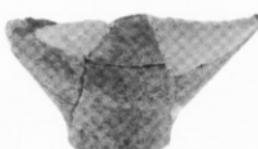
30



34



31



35



36



39



37



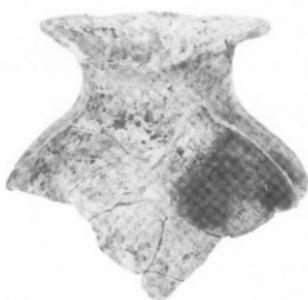
40



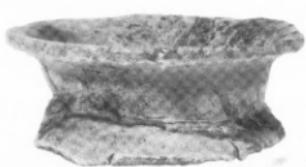
38



41



42



45



43



46



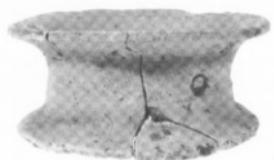
47



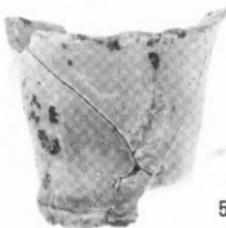
44



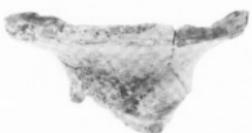
48



49



53



50



54



51



55



52



56



57



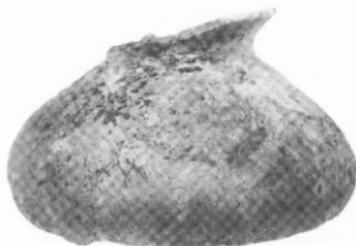
61



58



62



59



60



63



64



67



65



68



66



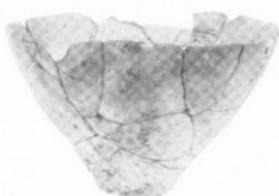
69



70



73



71



74



72



75



76



77



81



78



82



79



83



80



84



87



88



85



89



86



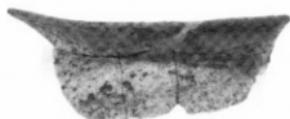
90



91



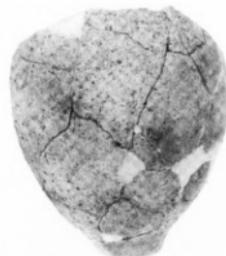
95



92



96



93



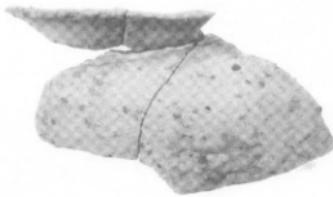
97



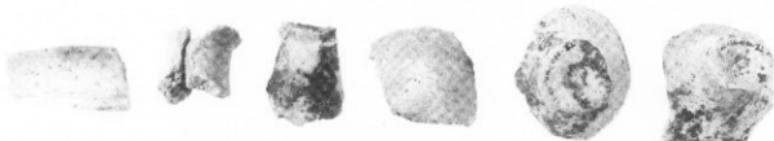
94



98



99



100

101

102

103

104

105



106

107

108

109

110



111

112



113



114



115

S D - 1 出土土器 (98 ~ 110)

S K - 2 (111 ~ 114)

S P - 1 (115)

報 告 書 抄 錄

フ リ ガ ナ	テズエイセキハックツチョウサホウコクショ						
書 名	手末遺跡発掘調査報告書						
シリ－ズ名	加古川市文化財調査報告						
シリ－ズ番号	17						
編 著 者	西川英樹						
編 集 機 關	加古川市教育委員会						
所 在 地	加古川市加古川町北在家 23-1						
発 行 年 月 日	平成15年3月						
所 収 遺 跡	所 在 地	コ 一 ド	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
手末遺跡	兵庫県 加古川市 神野町神 野796他	市町村 28210		34° 45' 20"	134° 52' 35"	平成11年 4月26日 ～7月8日	500m ² ほ場整備 事業
所 収 遺 跡 名	種 別	時 代	遺 構	遺 物	特 記 事 項		
手末遺跡	集落跡	弥生時 代	住居跡 溝 土壤	弥生土器			

加古川市文化財調査報告 17

手末遺跡発掘調査報告書

発行 加古川市教育委員会
編集 生涯學習推進室
加古川市加古川町北在家23-1 Tel 0794-21-2000㈹
印刷 加古川印刷事業協同組合

平成15年(2003)3月30日発行
